昭和44年12月23日第3種郵便物認可昭和48年11月1日発行毎月1回1日発行

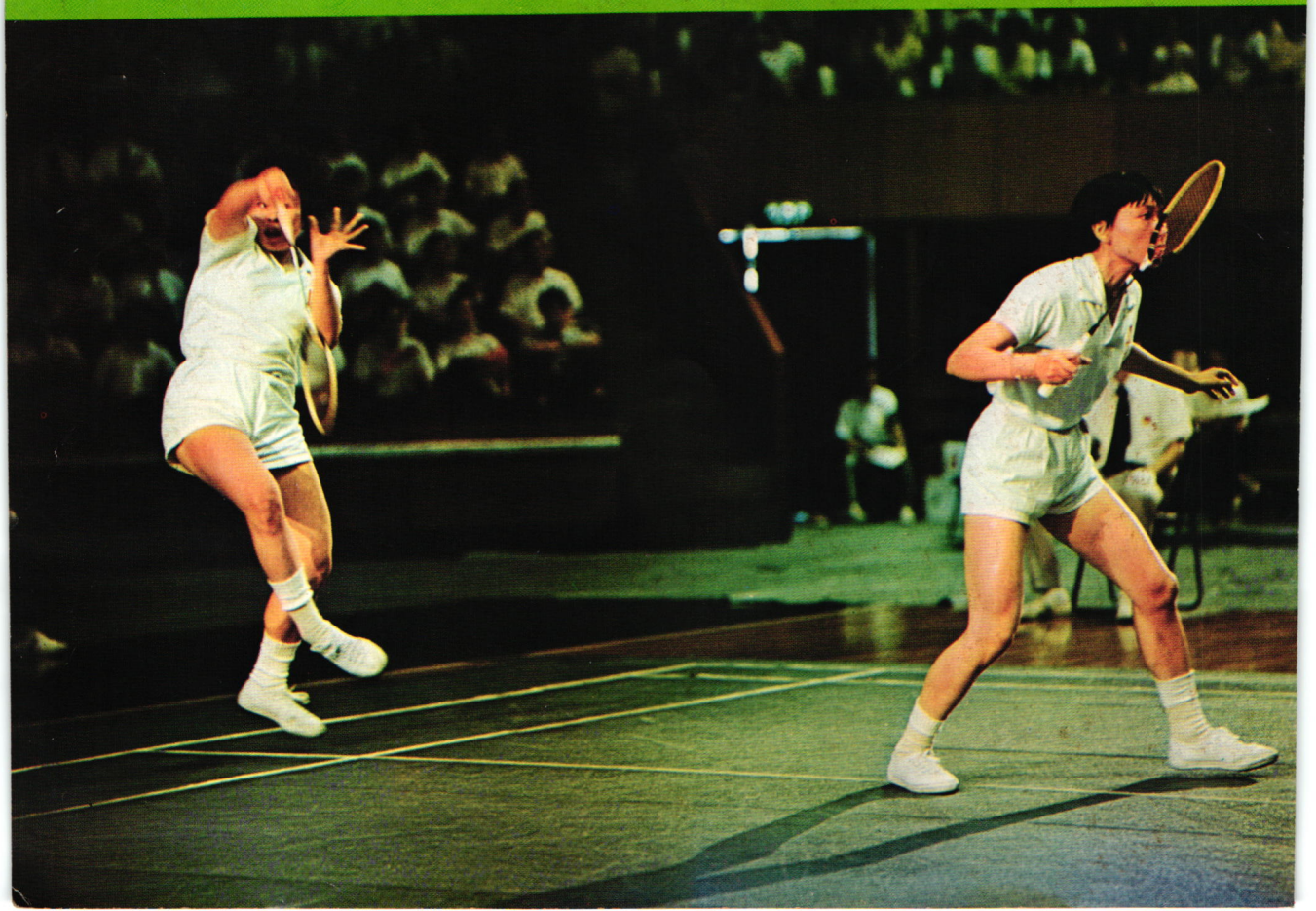
日本バドミントン協会

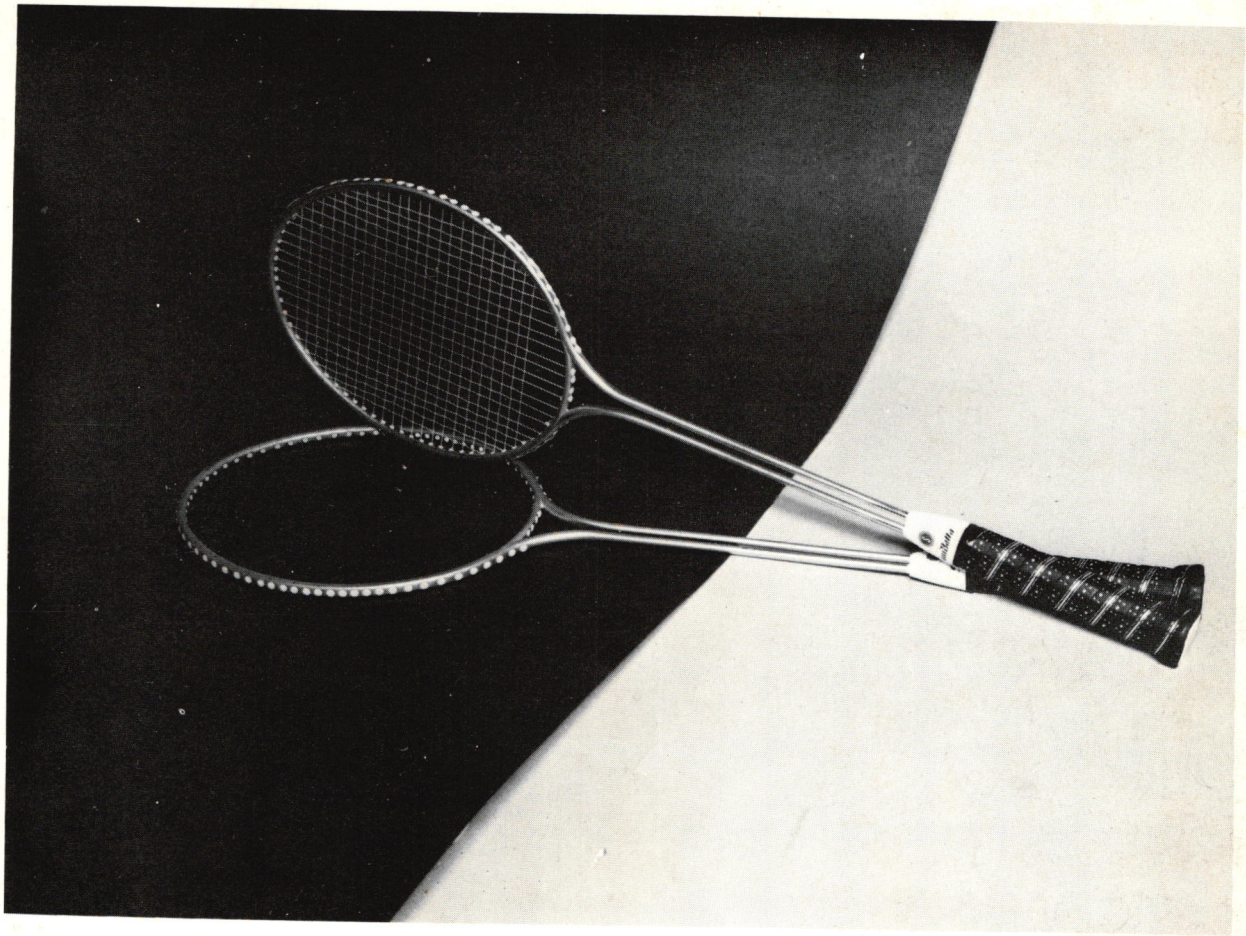
バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

NOVEMBER 1973

49





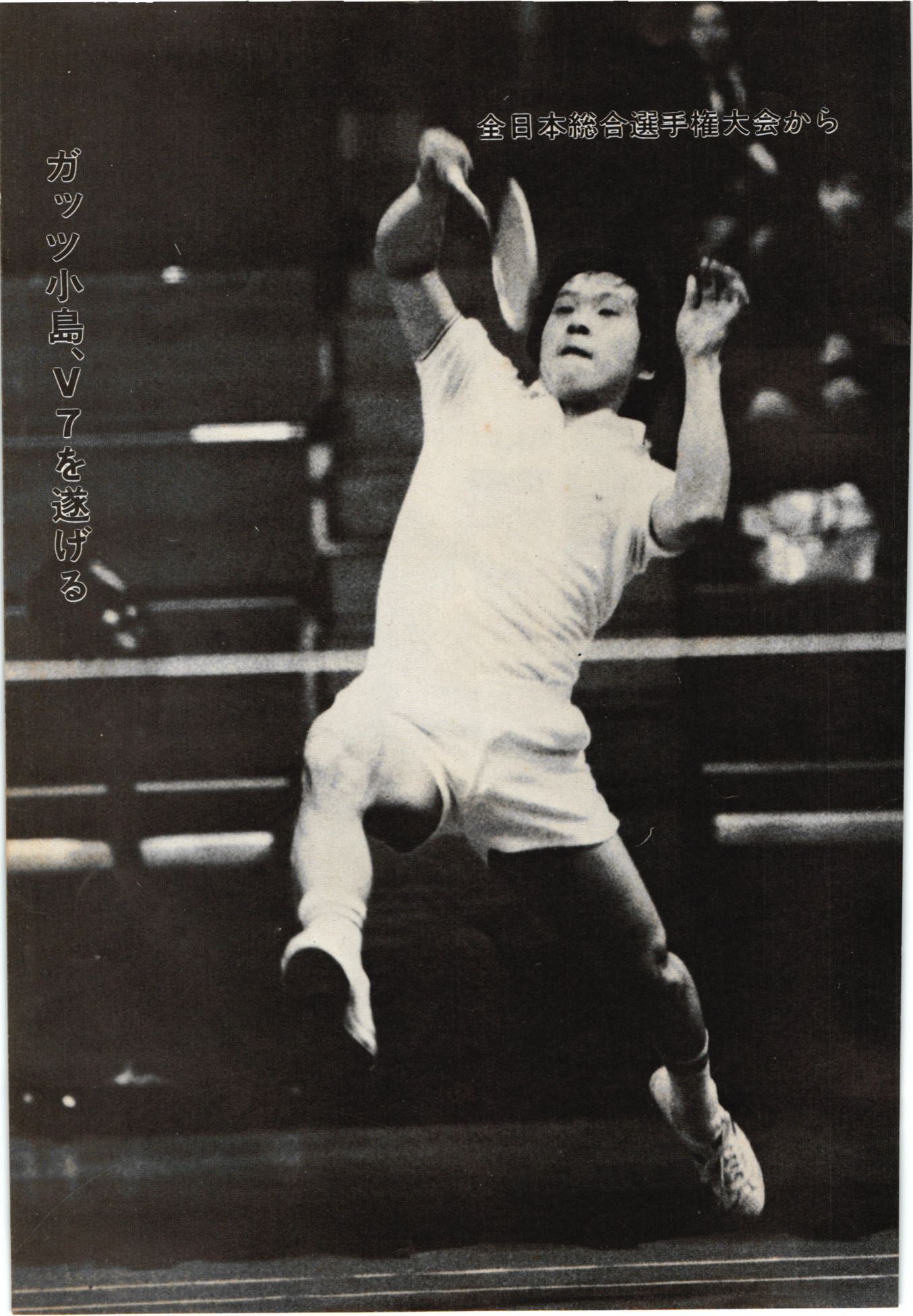
ALL STEEL RACKET SunBatta TWIN SHAFT

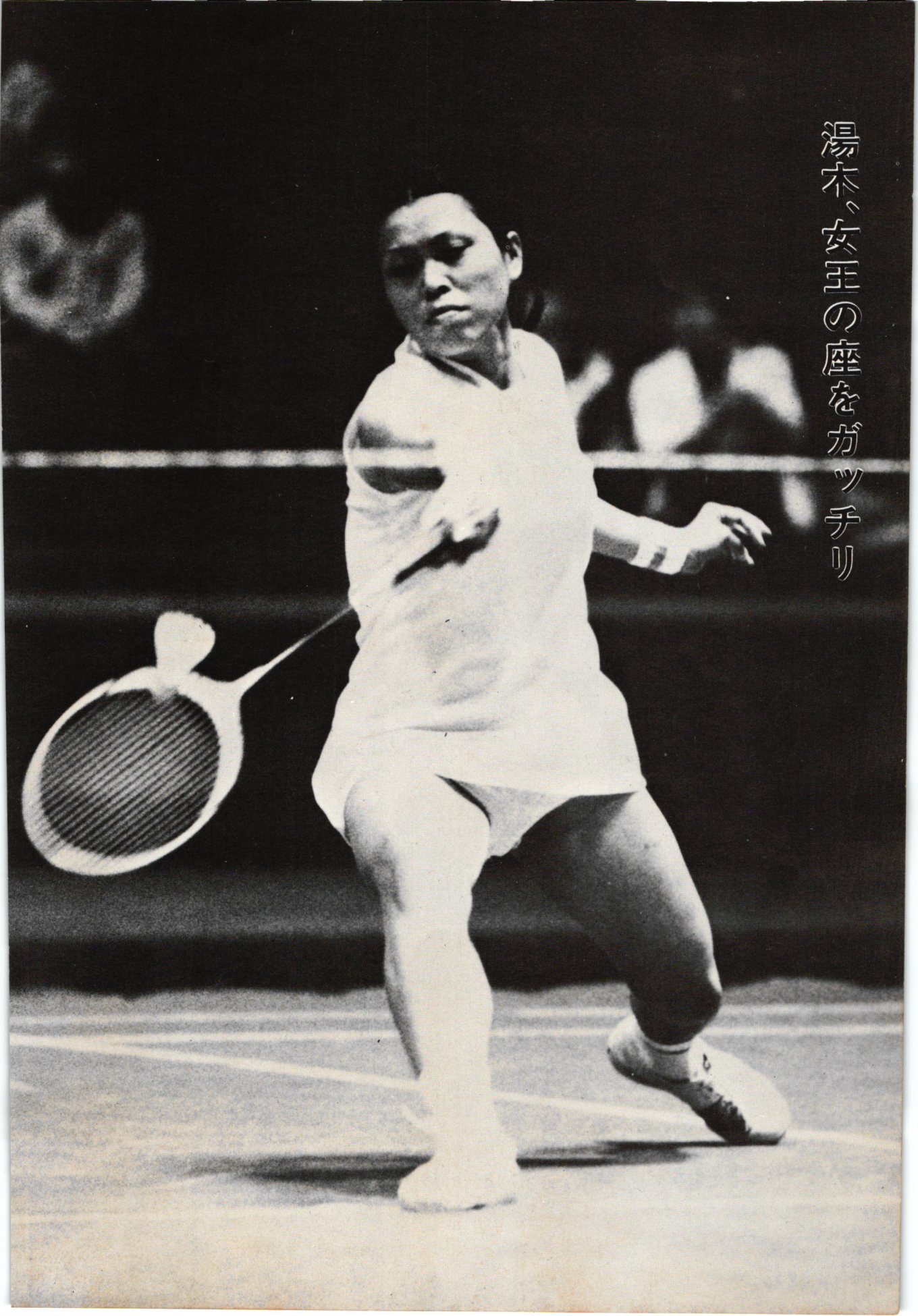
究明され！
完成された！
S-74
ALL ROUND

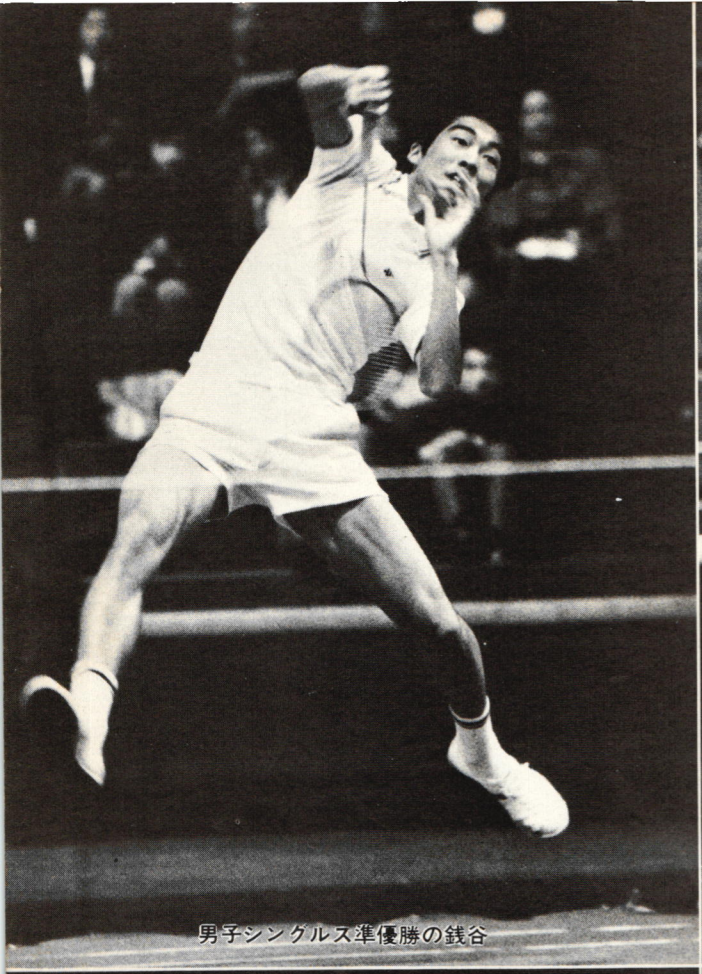
プレーヤーが長い間求めていたオールスチールが誕生しました。
従来のオールスチールラケットの利点及び欠点をあらゆる角度から究明され改良をし今ここに完成され皆様の目の前に現われました。
ツインシャフトの採用によって、フレームとシャフトとのひねりが最小限に押えられ自由自在なショットを楽しむ事が出来るでしょう。
アタックによし、レシーブによし、それがS-74オールラウンドです。
◇フレームのみ（ケース付）￥5,000

SunBatta TOKYO

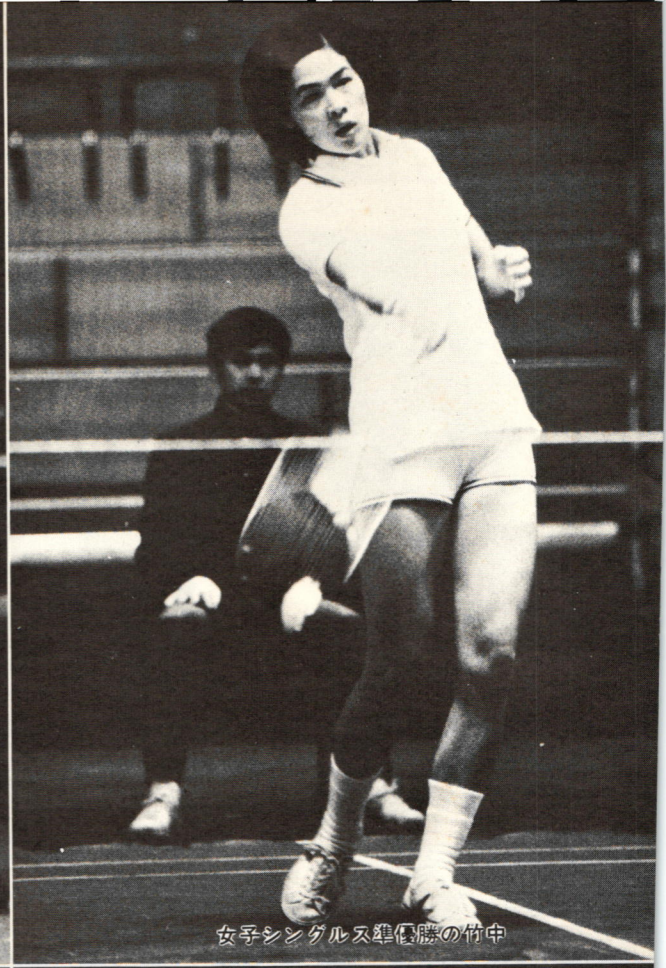
サンバタ


全日本総合選手権大会から
ガッツ小島、V7を遂げる

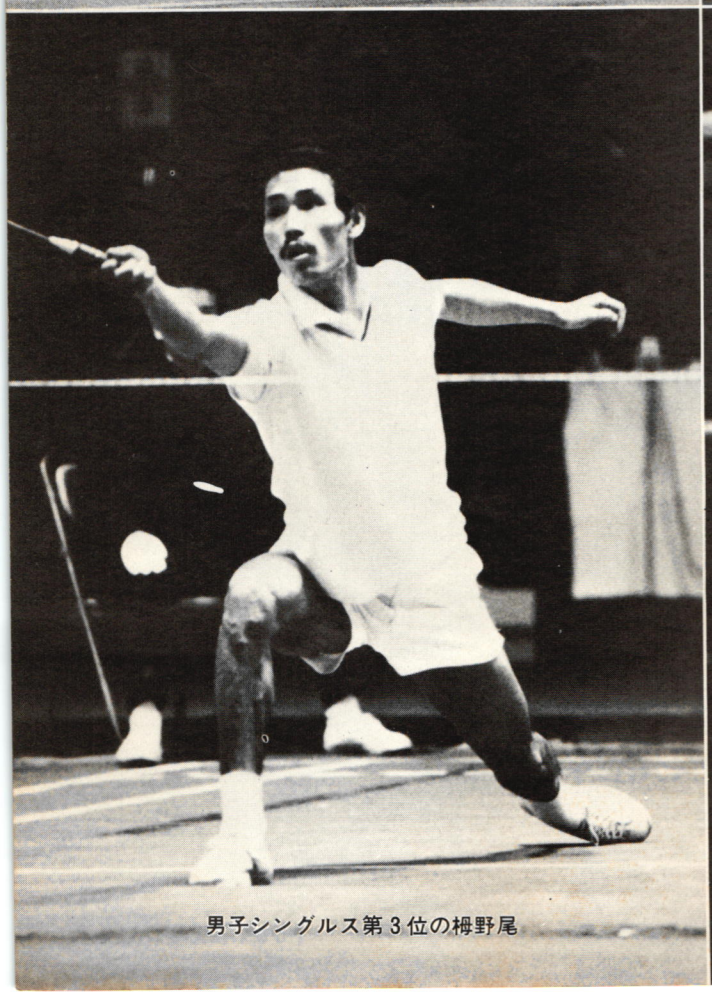

湯木、女王の座をガッチリ



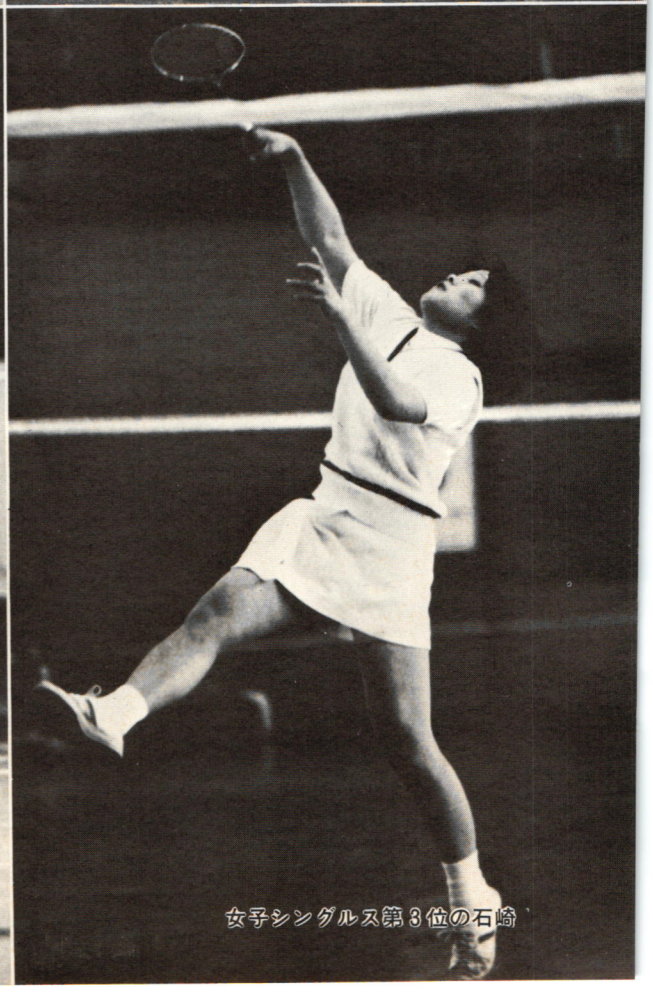
男子シングルス準優勝の銭谷



女子シングルス準優勝の竹中



男子シングルス第３位の梅野尾



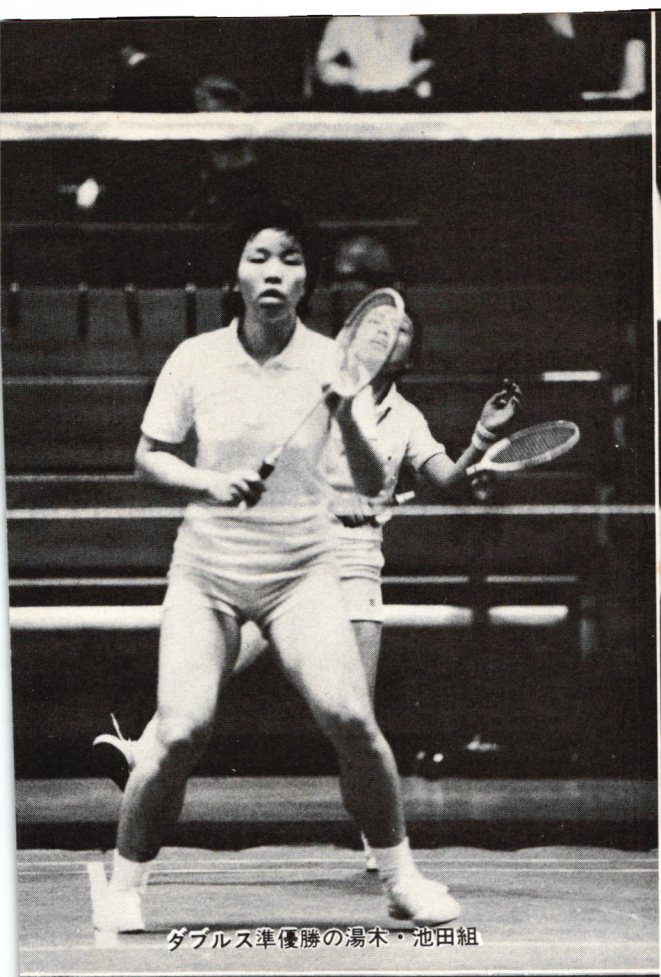
女子シングルス第３位の石崎



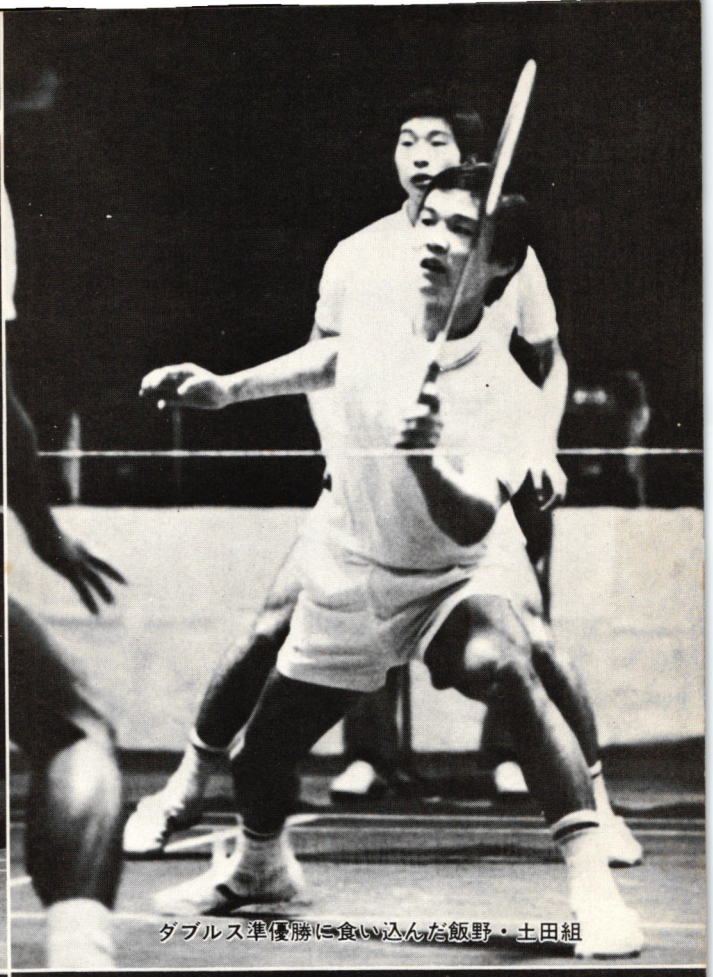
念願の初優勝、池田・梅野尾組



相沢・竹中組全英チャンピオンの面目保つ



ダブルス準優勝の湯木・池田組



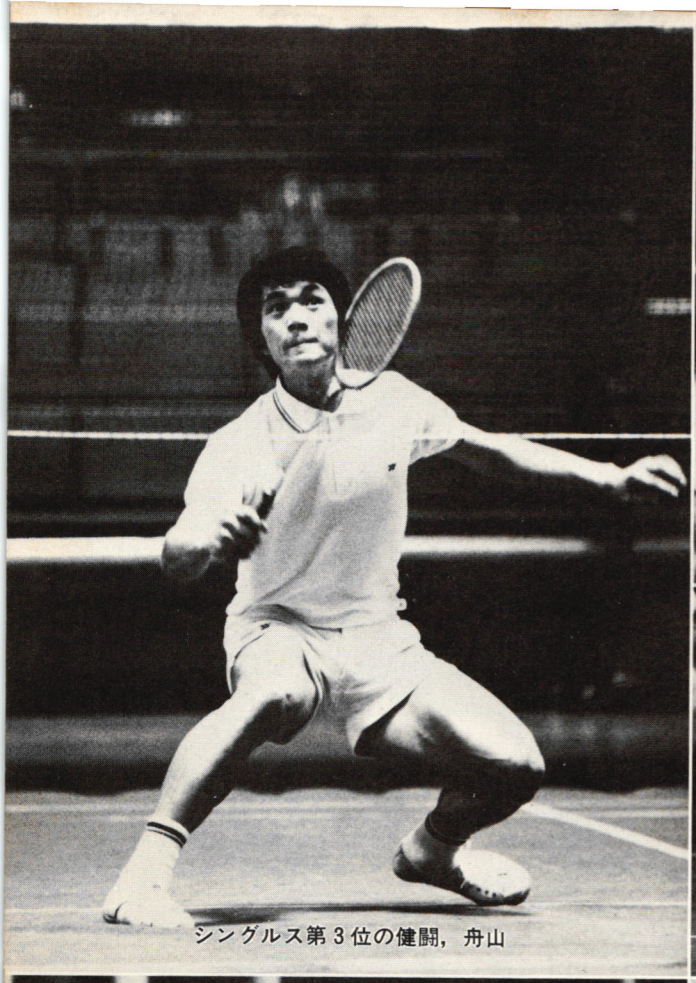
ダブルス準優勝に食い込んだ飯野・土田組



ダブルス第３位の田所・谷口組



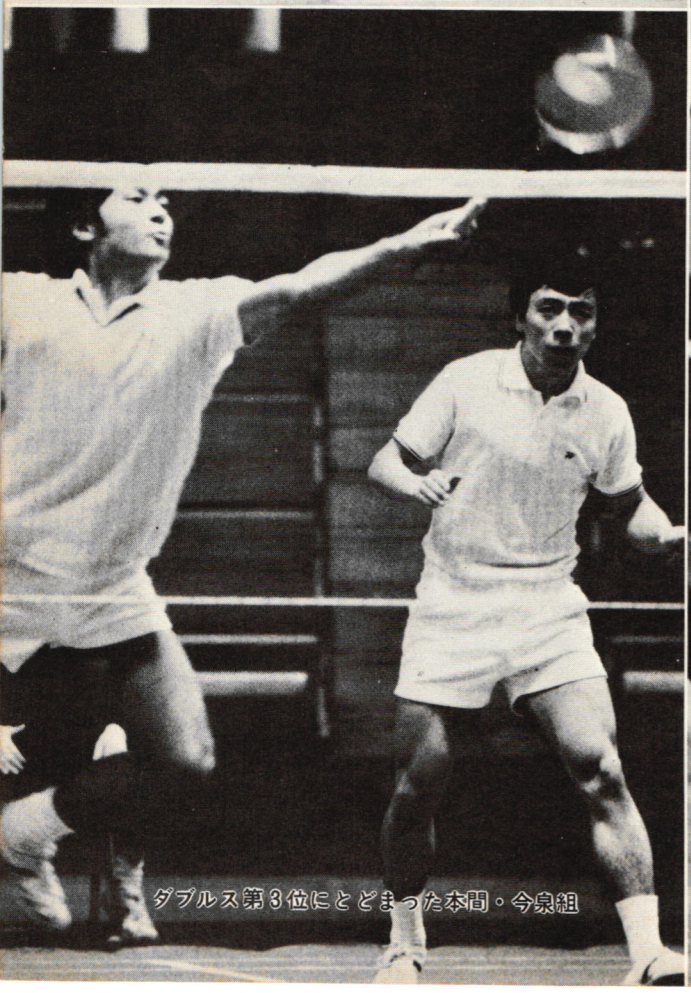
ダブルス第３位の西尾・秋本組



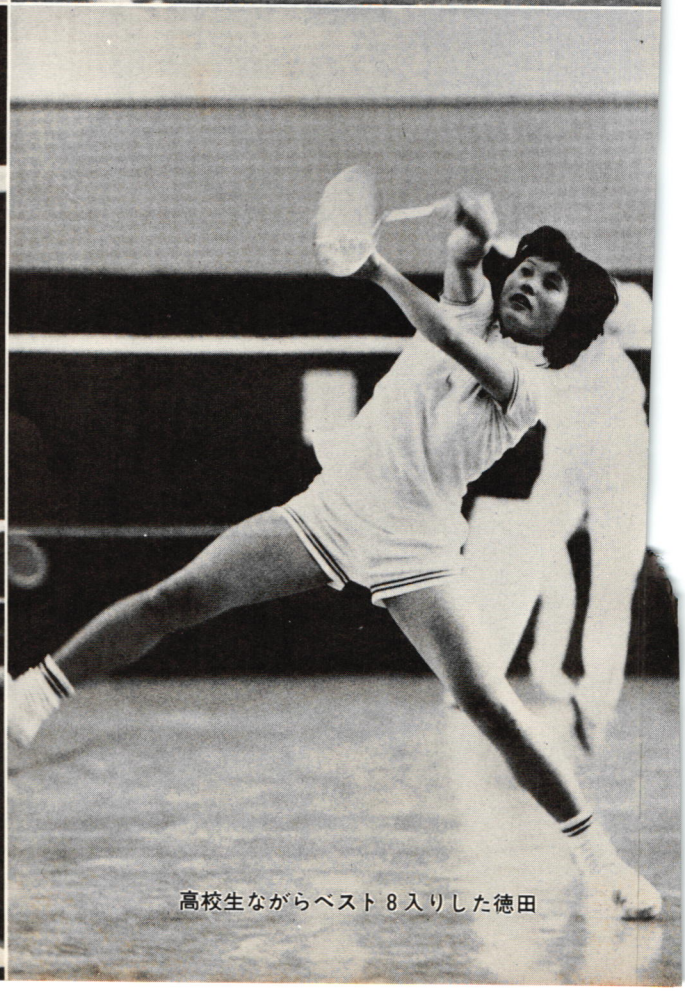
シングルス第３位の健闘，舟山



ダブルス第３位の石崎・柴山組

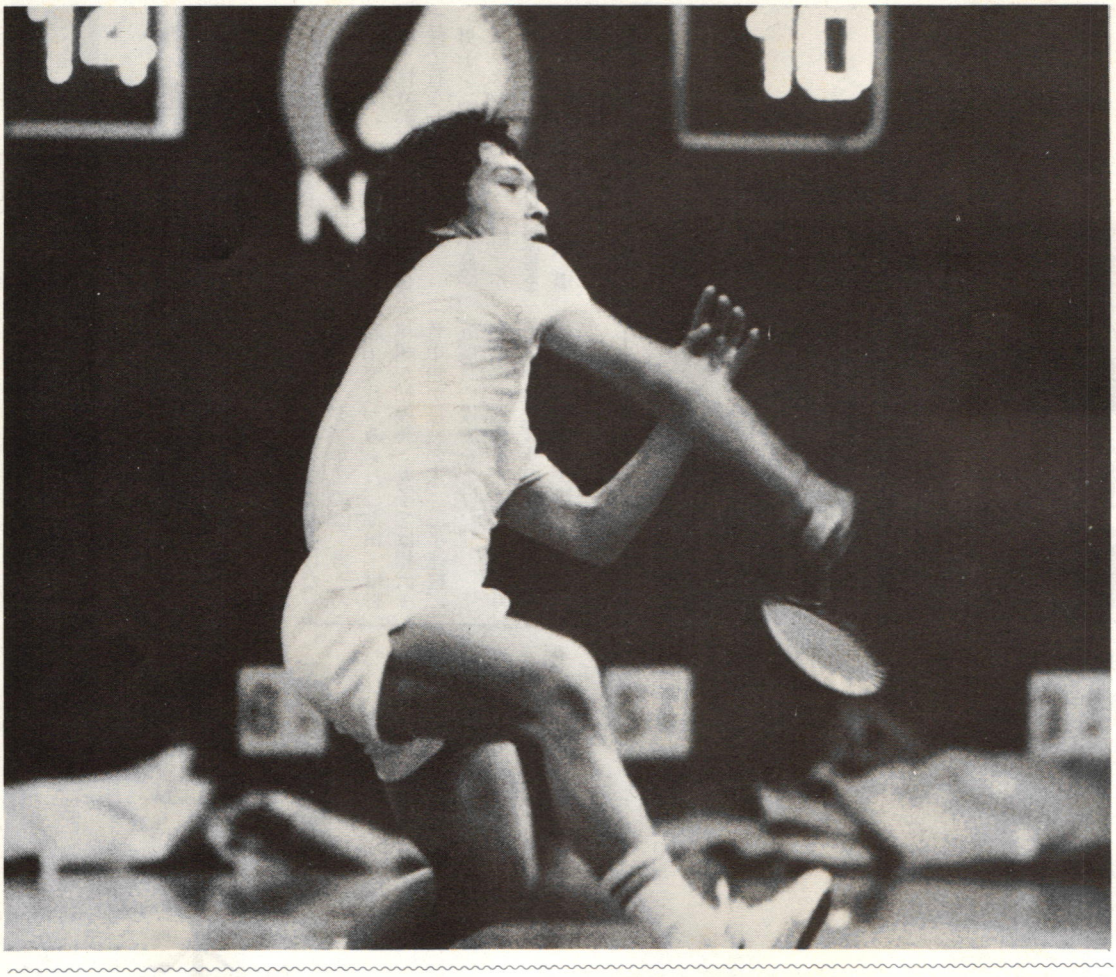


ダブルス第３位にとどまった本間・今泉組



高校生ながらベスト８入りした徳田


パワーとスピードで圧倒、梅野尾・竹中組



バドミントン界

〈48年11月号〉

★昭和48年度全日本総合選手権大会写真集……1
小島輝く七度目の栄冠、湯木も王座ガッチリ……10
池田・栂野尾組接戦の末、初優勝……11
混合はパワーの栂野尾・竹中組が優勝……12
★第28回国民体育大会秋季大会
神奈川、東京に逆転勝ち……14
険しかった3連覇への道……16
その一瞬、抱き合う四人……17
★第一回日中大会をふりかえって
福岡大会を観戦して……18
女子選手団に帯同して……19
日中親善雑感……20
★第一回訪中親善競技大会……21
★第24回全日本学生選手権大会
中央大学と日本体育大学が栄冠を獲得……22
銭谷順当に優勝……24
飯野・土田組スピードで圧倒……25
48年度秋季リーグ戦……26
北から南から……28
参考図書紹介……31
全日本総合選手権大会にひろう……32
国体三連覇達成（写真）……33
全日本学生選手権大会から（写真）……34
48年度秋季リーグ戦から……38
編集室から・次号予告……32

スタッフ／表紙撮影・山田真市／同制作・小浜正道／グラフ写真・山田真市、学生連盟／その他写真・山田真市、学生連盟、協会関係者／編集・瀬戸孝／協力・日本協会事務局、各加盟団体、愛読者

昭和48年度全日本総合選手権大会

小島（R.S.元町）輝く七度目の栄冠、湯木（カワサキ）も王座ガッチリ

昭和四十八年度全日本総合バドミントン選手権大会は、十二月十二日から、杉並区大宮前体育館、国立競技場代々木第二体育館で行なわれた。

男子シングルスでは、小島一平（ラケットショップ元町）が二年連続、通算七度目の優勝を飾り、女子シングルスでは、湯木博江（河崎ラケット）が二年連続、三度目の優勝をとげた。

一方、ダブルスでは、男子の新旧交代がみられ、池田・栂野尾組が初優勝、女子では相沢・竹中組が接戦の末、二年連続、五度目の優勝をとげた。

また、混合ダブルスでは、男子ダブルスばりの強打を放つ、栂野尾・竹中組が初優勝した。



大宮前体育館での会場風景

男子シングルス

▽準々決勝

小島（R・S元町） 2－1 谷口（トヨタ自工）

舟山（日大） 2－0 今泉（高岡市役所）

栂野尾（ヨネヤマ） 2－0 秋山（秋山紙店）

銭谷（中大） 2－1 本間（トヨタ自工）

▽準決勝

小島 2（15－8、15－10）0 舟山

銭谷 2（18－9、15－7、15－13）1 栂野尾

▽決勝

小島 2（15－8、15－7）0 銭谷

〔評〕第1ゲーム、小島はネット前への突込みがいまひとつ鋭さに欠け、銭谷よくとらえ、食い下がり、8－6で小島リード。しかし、銭谷の単調な攻めを小島落ち着いて処理し、いっきょに13－6とした。銭谷は時折り鋭いスマッシュを放ったがコーナーをわずかに切れるなどして、追い上げることができなかった。

第2ゲーム、銭谷は消極的なミスを続け、小島5－0とリードしたが、小島も気を抜いたのか5－5のタイとなる。しかし小島は、銭谷を左右にゆさぶりミスを誘い14－7とする。そして最後、長いラリーの末、小島は銭谷のバックハンドに鋭いクロスのスマッシュを決め、優勝した。

女子シングルス

▽準々決勝

湯木（カワサキ） 2－0 相沢（ヨネヤマ）

石崎（電電東京） 2－0 秋本（日体大）

竹中（ヨネヤマ） 2－0 池田（日女体大）

西尾（日体大） 2－0 徳田（四条畷）

▽準決勝

湯木 2（12－11、12－10）0 石崎

竹中 2（11－11、11－8）0 西尾

▽決勝

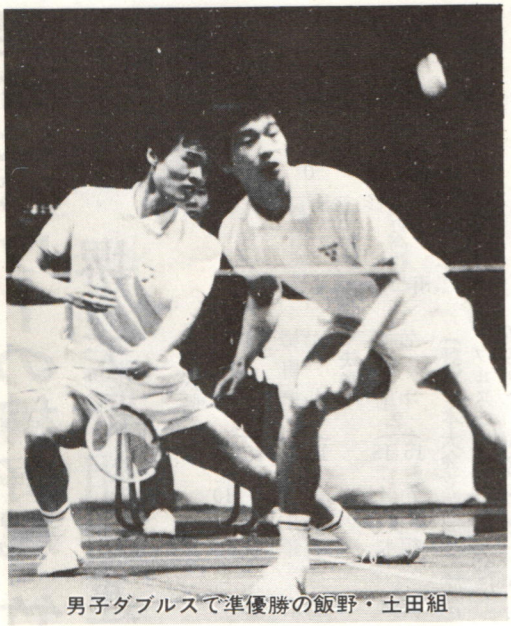
湯木 2（12－11、12－9）0 竹中

〔評〕かつての全英チャンピオン同士の対決は、さすがにコーナーぎりぎりをつくきわどいラリーが続いた。シーソーゲームの末、竹中は8－7とリードしたが、ここでドロップショットを3本続けてミス。湯木は慎重に攻め、第1ゲームをものにした。

第2ゲームにはいると、竹中はすっかりペースを乱し、湯木9－0とリード。あっさり勝負がつくかと思われたが、竹中は湯木の油断を見逃さず、着々とポイントをあげ9－9のセッティングにもちこんだ。しかし、湯木も立ち直り、最後をしめ12－9で王座を守った。

池田・栂野尾組接戦の末、初優勝

相沢・竹中組逆転勝ちで五度目



男子ダブルスで準優勝の飯野・土田組

男子ダブルス

▽準々決勝

飯野・土田（日大）2－1小島・秋山（R・S元町／秋山紙店）

本間・今泉（トヨタ自工／高岡市役所）2－0尾崎・銭谷（中大）

田所・遠藤（電電東京／電電北海道）2－0谷口・木戸（トヨタ自工／ヨネヤマ）

池田（電電東京）・栂野尾（ヨネヤマ）2－1関村・牧野（高岡市役所）

▽準決勝

飯田 2（15－13／18－13）0 本間・今泉

池田・栂野尾 2（15－11／15－5）0 田所・谷口

▽決勝

池田・栂野尾 2（15－11／15－11／15－4）1 飯田・土野

〔評〕　準々決勝で、飯野・土田組は新鋭らしくはつらつとしたプレーで、ベテラン小島・秋山組にせり勝った。この試合、飯野・土田組は第1ゲーム出足から速い攻撃で、先手先手をとり、軽く先勝。しかし、第2ゲーム、小島・秋山組はうまく球を沈め、学生ペアのミスを誘い、タイにもちこんだ。小島・秋山組は調整不足がうかがえ、ファイナルゲーム前のインターバルにも、調子をあげようとしていたが、第3ゲームにはいっても、甘い球が続き、苦しい試合展開となった。

学生ペアは、強烈なスマッシュを軸に、レシーブからの切り返しが早く、うまく攻撃に転じ、終始主導権を握った。

最後、学生ペアはマッチポイント14－13としてから、小島組に2度サーブ権を奪い返されながらよく得点を許さず金星をあげた。

ベテランペアは、第2ゲームうまくかわしたものの、ファイナルゲームは、学生の早いタッチにあい、また、レシーブを突き破れず敗れ去った。

決勝、学生ペアは池田・栂野尾組から第1ゲームを先取したが、結局、実力ナンバーワンペアの堅陣を破れず、ファイナルゲームに持ち込まれ優勝は逸した。

男子ダブルスは、ナショナルチームのペアを生かして試合に参加したため、初顔のペアも多かった。飯野・土田組が第2位に食い込んだだけでなく、田所・谷口組も、日中戦以来、着実に力をつけ、ベスト4入りを果たした。

女子ダブルス

▽準々決勝

相沢・竹中（ヨネヤマ）2－0陣内・山森（日体大）

西尾・秋本（日体大）2－0塩崎・今田（日女体大／電電東京）

湯木（カワサキ）・池田（日女体大）不戦勝古谷・佐伯（日体大）

石崎（電電東京）・柴山（カワサキ）2－0石田・吉田（日女体大）

▽準決勝

相沢・竹中 2（15－11／15－11）0 西尾・秋本

湯木・池田 2（15－4／15－7）0 柴山・石崎

▽決勝

相沢・竹中 2（7－15／15－10／15－3）1 湯木・池田

〔評〕　湯木・池田組は、池田の強打が冴え、第1ゲームを快調に先取。しかし、第2ゲーム相沢組は立ち直り、後半追い上げられたが危げなくタイに持ち込んだ。第1、第2ゲームの様子からすると、第3ゲームもかなりの接戦が予想されたが、勝負はあっけなかった。

ファイナルゲーム、湯木・池田組は選球ミスが多く、攻撃に回ることができず0－7と引き離され、2－8でチェンジ・エンド。しかし相変わらずサービスミスなどのケアレスミスが続き、3－9。ここで、相沢・竹中組は、高い角度からスマッシュをたたきつけ、いっきょに6本連取し、優勝した。

湯木・池田組は、もう少し積極的に攻撃をしかければ、あるいはストレート勝ちのチャンスもあったと思われるが、ここは、第2ゲームから冷静に球を沈め、池田を前に釘づけにした相沢・竹中組のコンビネーションとインサイドワークをほめるべきであろう。

混合はパワーの栂野尾・竹中組が優勝

堺・天野組四連覇はならず

混合ダブルス

▽準々決勝

堺（カワサキ）
天野（東海女短教員）
2－0
田中（葛成中教員）
池尻（茂草高教員）

木戸・相沢（ヨネヤマ）
2－0
杉田（立野高教員）
杉田（日本コロムビア）

栂野尾・竹中（ヨネヤマ）
2－0
池田・坂口（電電東京）

鈴木・石崎（電電東京）
2－0
山本・高橋（北辰電機）

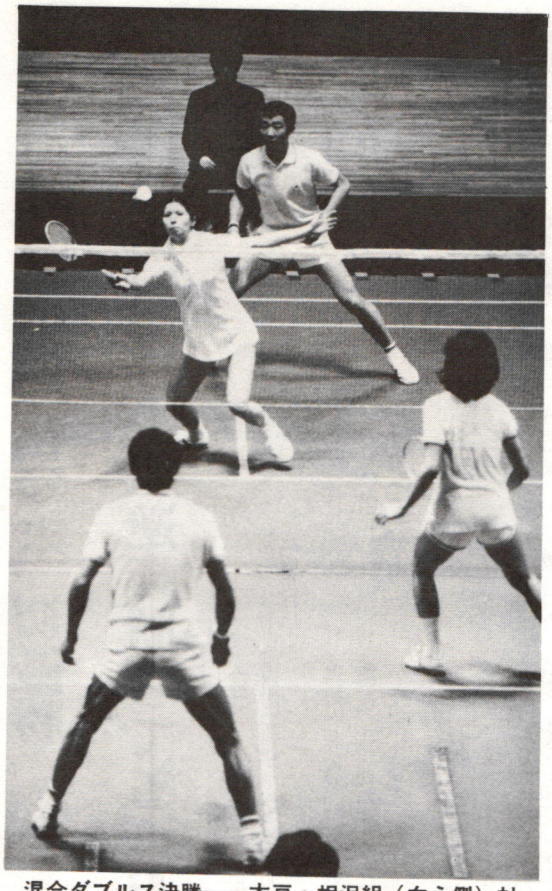
▽準決勝

木戸 相沢
2（15－4 15－10）0
堺 天野

栂野尾 竹中
2（15－3 15－5）0
鈴木 石崎

▽決勝

栂野尾 竹中
2（15－4 15－7）0
木戸 相沢



混合ダブルス決勝――木戸・相沢組（向う側）対栂野尾・竹中組

【評】本大会でかつての混合ダブルスのイメージが完全に一新された。混合ダブルスといえば、前衛に女子をおき、男子が後衛を守り、いかにして球をつなぎ、チャンスを作りだすかということころにその特色がみられた。そこで、女子が手を出しすぎたり、また男子が甘い返球をしたために、女子が狙い打ちされるといったことが起き、それをカバーしあう心理的側面が非常に重要な試合であった。

しかし、今大会で決勝に進出した2チームは、いずれもローテーションを多用し、女子といえども後衛でスマッシュを放つという形のものだった。

したがって、ミックスの手本とまでいわれた堺・天野組も、杉田夫妻組も代々木体育館にそのプレーぶりを見せることはできなかった。やはり、ローテーションを使い、男子なみの攻撃力をもつ女子のペアには、とうてい男子一人が後衛で防ぎきれるものではない。こういったプレーのできる女子は、相沢、竹中、湯木、池田ら数人しかいまい。

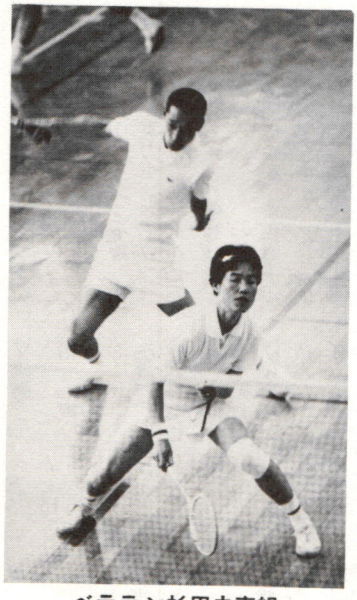
栂野尾・竹中組は全く他を寄せつけず楽勝した。木戸・相沢組もほとんど苦戦せずに第二位に食い込んだ。四連勝を狙った堺・天野組は練習不足か、いいところなく敗れ去った。昨年不振だった杉田夫妻組もその雪辱をはたすことができずベスト8どまりであった。

今大会は、若い力の前にベテランが完全に屈したかっこうとなったが、また来年は巻き返しをはかってほしいものである。堺・天野組、杉田夫妻組のさわやかな試合ぶりを知っているファンはそれを期待しているのである。また、今大会一位、二位の両ペアは、さらに腕をみがき国際大会にも挑戦してもらいたいものである。

小島、湯木、相沢・竹中と昨年同様のメンバーが優勝をしているものの、しだいに新旧交代のきざしがみえてきている。

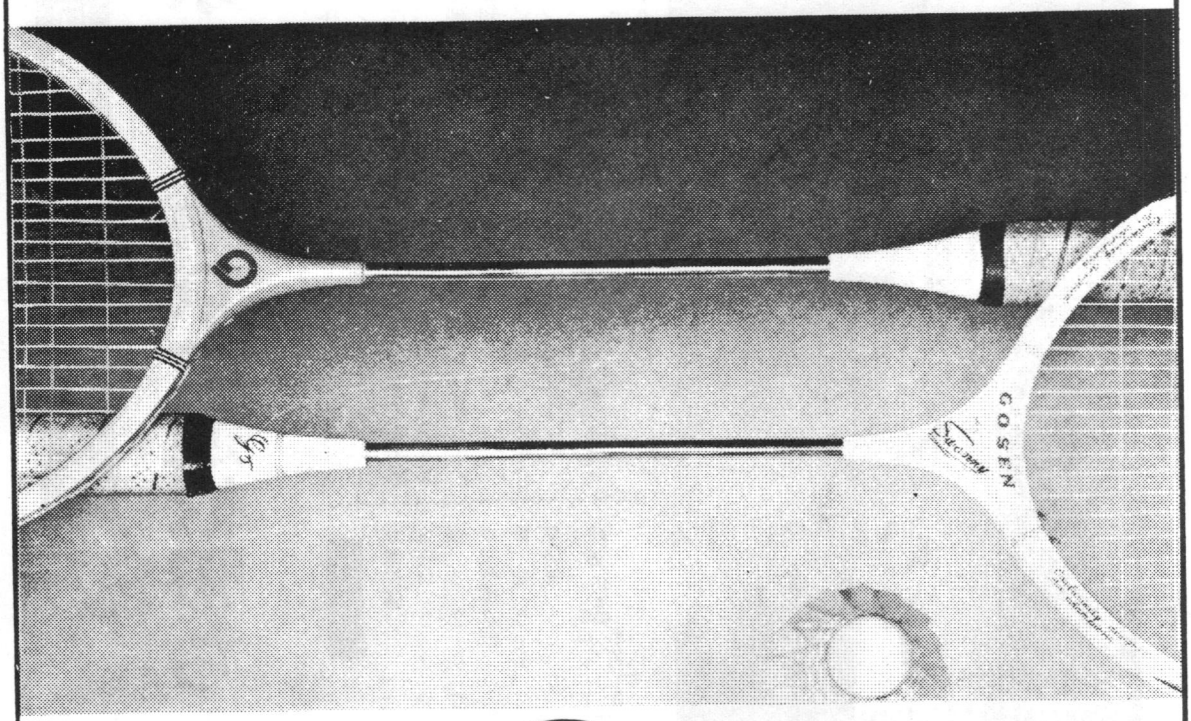
学生選手をはじめとする若手には、さらに切磋琢磨してチャンピオンをめざしてもらいたい。そしてベテラン陣は〝まだまだ若いものには……〟といった気慨をもちつづけてほしい。

（瀬戸 孝）



ベテラン杉田夫妻組

精緻。俊敏。この確かな手応え。
ロング・テーパード・シャフト。



LUBIRD & SWANNY

Gosen Badminton Racket



特殊合板の力強いフレームと、
従来のものよりさらに長くなった
クローム・テーパード・シャフトの強靭性
が強力なバイブレーションを生み出します。
ゴーセン・ルバード、スワニーのロング・シャフトコンビ
が逞しいラケットワークを可能にし、世界のバドミントン
界を陵駕し、そのシャープで逞しい手応えを披露します。

●No.B65ゴーセン・ルバード〔フレーム〕……¥3,800
●No.B60スワニー〔フレーム〕・タオルグリップ付…¥3,800

株式会社ゴーセン
本　　社・大阪市東区農後町4　☎(06)942-5816(代)
東京営業所・東京都台東区鳥越1-26-1　☎(03)862-6576(代)

第28回国民体育大会秋季大会

神奈川（一般男子）東京に逆転勝ち―延々3時間の大熱戦

第28回国民体育大会秋季大会のバドミントン競技は、10月15日から18日まで、千葉県茂原市で開催された。

一般男子は神奈川、東京、富山、山梨、愛知の激突となり、チームワークにまさる神奈川が東京にせり勝って3連勝の偉業をなしとげた。

一般女子は東京、高校女子は大阪が、それぞれ実力をいかんなく発揮し、大会前の予想どおり優勝した。高校男子も準決勝で強敵奈良を破った富山が決勝では福島を圧倒して5年ぶり4回目の栄冠に輝いた。

また、教員男子は、各県力が接近し、大いに場内をわかせたが、滋賀が石川に逆転勝ちをおさめた。



一般男子

▽準決勝
神奈川　2－0　愛知
東京　2－0　富山

▽三位決定戦
愛知　2－1　富山

▽決勝
神奈川　2（複0－1、単2－0）1　東京

小島　1　15－9、10－15、17－18　2　池田
宮川　　　　　　　　　　　　　　梅野尾○

○笠井　2　13－7、（棄権）、15－0　0　関
小島　　　　　　　　　　　　　　梅野尾

2　15－12、5－15、15－10　1

（神奈川は三年連続九度目の優勝）

【評】　3時間の熱戦の末の逆転勝ちだった。その幕あけは1－1から死力を尽して渡り合った初戦のダブルス。

第3ゲームの立ち上がりは東京のペースで進み、4－8のコートチェンジ、小島・宮川組はまったくの劣勢だった。しかし、ここからじわじわと追い上げ、逐に13－13のセッティングに持ち込んだ。0オールから3ポイントを奪い、ケリをつけるかに見えたが、これが3オールにもつれ、さらに4オール。このしのぎ合いは圧巻だった。どちらも手痛いミスは出たが、これが手に汗する激しい攻防にいっそうのスリルを持たせる材料となったほどだ。ことに4オールからサービス権を奪われ、一歩も引けぬ神奈川県ペアのレシーブ力は場内を興奮に巻き込んだ。しかし、受け身続きでは限度がある。カサにかかってスマッシュをたたきつける東京に軍配が上がった。

半歩以上の後退、と見られたが、新鋭笠井が、左からの小気味良いスマッシュを要所に決めて好調な滑り出し。13－7の時関が、右足ジン帯を痛めて棄権というアクシデントで第1シングルスを握った。

勝負は第2シングルス小島－梅野尾のエース同士の対決にかけられた。これも1－1と第3ゲームにもつれ込む。だが、第2ゲーム後半、小島は両足にけいれんを起こし、このゲームを投げ、ファイナルに備える構え。絶対の信頼を託せるエースでも、これは不安な影を投げた。



一般男子3連覇をなしとげた神奈川県（左・宮川，右・小島）

第3ゲーム――やはり精彩がない。梅野尾の巧妙なフェイントが光り、2－8でコートチェンジという苦しさ。しかし、ここからが小島の真価。持てる技術をすべて出し尽して必死の反撃。両サイドいっぱいを突くスマッシュ、意表のドロップを巧みに決め、相手のミスもあって、一気に7ポイントを連取。9－8とし、逆転勝ちに結びつけてしまった。

（神奈川新聞）



開会式

一般女子

▽決勝

東京 2（複1－0 単1－0）0 香川

○相沢 竹中 2（15－6 15－5 13－18）1 森川東

教員男子

○湯木 2（11－4 11－8）0 川東

▽三位決定戦

山形 2－1 神奈川

▽決勝

滋賀 2（複0－1 単2－0）1 石川

藤原 藤上 0（8－15 4－15）2 長谷川○

高校男子

▽三位決定戦

奈良 2－0 千葉

▽決勝

富山 2（複1－0 単1－0）0 福島

○藤原 2（15－4 15－6 2－15）1 長谷川

○藤上 2（15－2 6－15 15－8）1 和田

▽三位決定戦

山形 2－1 栃木

▽決勝

大阪 2（複1－0 単1－0）0 千葉

○徳田 2（11－1 11－4）0 瀬野

○徳田 高田 2（15－0 15－11）0 平野 山田

高校女子

○西村 梶川 2（15－3 15－12）0 寺田 五十嵐

○西村 2（15－6 15－7）0 寺田

講談社スポーツシリーズ

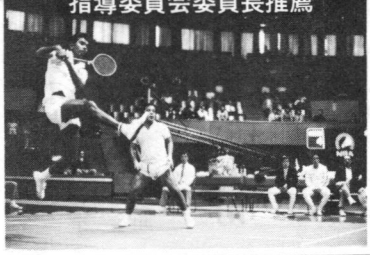
バドミントン

勝つための秘訣

堺 栄一 ●880円

著者多年の体験をもとに，連続写真を豊富に使用して解説した，プレーヤー，コーチ必携の書。《増刷出来》

日本バドミントン協会
指導委員会委員長推薦



講談社

険しかった3連覇への道
小島を軸にがっちり団結

小島（ヨネヤマラケット）のフォアからのクロスショットは、矢のように相手の足元に突き刺さった。レシーブの態勢さえもとらせない、見事なスマッシュだった。跳び上がる小島。ベンチの鈴木監督（三菱重工）宮川（河崎ラケット）笠井（関東自工）の両選手もバネ仕掛けのように立ち上がり、コートに飛び出した。一般男子バドミントンの輝く3連覇達成の瞬間である。

試合終了のあいさつを交わし、退場口を出て来た顔は底抜けに明るい。出迎える教員チーム、応援に駆けつけていた県協会関係者と手を握り、肩をたたき合って喜びを分かち合った。

だが、この感激のシーンに到達するまでの道は険しかった。3連覇の第一条件として、だれもが口にしたのは「初戦のダブルスを握ること」だった。それが、大接戦の末、東京にさらわれてしまったのだ。

このハンディを盛り返し、逆転勝ちへの、突破口を開いたのが新鋭笠井。今大会で培った自信を十分に発揮。相手を一方的に押しまくったあげくの棄権勝ちを得て小島につないだ。切り札小島がこれにすかさずこたえる。ダブルスの激闘で疲れ切った体にムチ打ち、若さにまかせて闘志を燃やす東京のエース梅野尾に絶対のピンチに追いつめられながら、鍛え上げたキャリアとテクニックでグンと踏みこたえた。

祝福の輪の中の小島選手は全身汗まみれ。屈伸運動をしながら、時おり顔をしかめる。両ふくらはぎがピクピクけいれんして、激しいゲームの後を物語る。

「一度はあきらめました。それが、コートを変わったらいく分足の調子が持ち直してきた。それに、相手が勝ちを意識して攻撃が雑になり、タイミングがずれてきた。それでミスを出してくれたので追いつけた」と熱戦を振り返った。そして「そうなったらこっちの動きも良くなったから、現金なもんだ」と周囲を笑わせる。教員チームの杉田選手（立野高教）に「ネットのクロスでつながれたら、ダメだったな」と言われると、コクリとうなずいたほどだから、まさに綱渡りの勝利だった。だが、それが出来るのも小島ならではと言えるだろう。

この小島の得難いパートナーとして3連勝に貢献した宮川選手も「みんなで気を抜いたプレーだけはしないようにと、それだけを心がけた。それが、ラッキーを引き出した原因でしょう」と、チーム一丸の勝利を強調。「ダブルスで負けたのはくやしいが…」と言いながらも目は細くなるばかり。今大会の影のヒーローとも言える笠井選手も「うれしい。小島さんはじめ一流選手と接して得たものは大きい。これを今後のプレーに生かしていきたい」とニッコリ。さらに二人で口をそろえて「小島さんの競技にかける厳しさを少しでも身につけたい」と、頼れるエースをたたえる。鈴木監督も「ホッとしました」と表情をくずす。「一カ月前から県内の各事業所の体育館を借りての合同練習からきょうまで、みんな良くやってくれました。感謝しています」と会心の笑みを浮かべていた。各人がその持ち場に徹した固い結束の3連覇と言えるだろう。

（神奈川新聞）

誕生日を勝利で飾る

○…神奈川一般男子の笠井選手はこの10月17日が二十四歳の誕生日。それを見事に飾って「こんな、いい記念はない」とニッコリ。国体二連勝の不動の陣容の一人だった渡辺選手（横浜市役所）に代わって今回が初出場だが、初戦からシングルス3連勝。代役を立派にこなした。

「小島さんをはじめ先輩のプレーは勉強になることばかり。とても楽しいですよ。きょうの試合もアドバイス通りに戦いました」といかにも新鋭らしい言葉。高校時代、静岡から国体出場の経験があり、法大時代の実績もある選手だが「神奈川のチームワークは最高。あすの決勝戦は思い切って行きます」と元気いっぱいだった。

19回目の国体出場

○…バドミントン準決勝で惜しくも敗れた神奈川県教員男子チームの杉田博選手はことし四十歳。一般、教員合わせて国体にはことしで十九回目、初出場から二十一年目というベテラン選手。激しい動きの中で頭脳的なプレーを要求されるこの競技。杉田さんが最も充実した時期は二十五歳から三十歳ごろまでだという。

「始めたのは高校二年のとき。何かスポーツをしたいと思い、あまり人がやらないバドミントンを選んだ。そのうちやればやるほど面白くなり、とうとうこの年になってしまった」バドミントンの話になると口調が熱っぽくなる。奥さんもバドミントン選手。協会の仲間の一人が、「杉田夫妻の組んだ混合ダブルスは、呼吸もピッタリ。見事なものですよ」と話していた。

（神奈川新聞）

県人の優秀県外選手に複雑な表情

富山一般男子三位決定戦は愛知に2－1と惜敗した。愛知の選手は谷口（上市高ＯＢ）松島（富商ＯＢ）と前日準決勝で対戦した東京の梅野尾・池田組（富商ＯＢ）と同じく富山出身選手。

一般の中山監督は「せっかく好選手を育てても県外へ出てしまうが、富山出身選手の活躍を見て喜んでいいのかどうか…」と複雑な表情だった。

（北日本新聞）

その一瞬、抱き合う四人

そっと涙ぬぐう 不破監督

その瞬間、割れるような拍手と歓声が千葉県立茂原高校体育館にこだました。バドミントン高校男子の決勝戦14－6から富山商業・西村正美選手が放ったスマッシュを、福島の寺田繁選手がレシーブミスしてネットし、富山県高校バドの五年ぶり四回目の優勝が決まった一瞬だ。

不破監督が真っ先にコートへ飛び出す。梶川、上両選手がこれに続く。四人はコートの中で激しく抱き合う。抱き合って離れない。会場は興奮のるつぼだ。

富山県勢が活躍した数ある競技の中で、で、初の天皇杯得点だけに応援の富山県本部員や県人会の人たちが躍り上がり、瀬川浩体育保健課幹主は目にいっぱいの涙をためていた。

同チームは富山商業三年の西村正美、梶川博之両選手と二上工業三年の上治雄選手の三人。国体では十六日の準々決勝で鹿児島を2－1で破り、十七日の準決勝では強敵奈良をも2－1でしりぞけた。

事実上の優勝戦といわれた準決勝では第一戦のダブルスで奈良に先手をとられ、続く二戦目のシングルスでも西村が一ゲーム失い応援席を失望させた。だが二ゲーム三ゲームで奇跡の逆転、第三試合の梶川は危なげなく二ゲームを先取しての大逆転だった。

不破監督、二川副団長、瀬川主幹らは「死んだ子が生き返った」と、この勝利を喜んだものだ。

監督の不破裕富商教諭にとっては岐阜、埼玉、福井に次いで四回目の優勝であり、執念の勝利であった。西村選手は「きょうの優勝は九分どおり堅いと思っていたが、相手とのポイント差を出来るだけ離したいと思ってやった」と余裕のあるところをみせていた。

また、梶川選手も「西村君とともに調子がよかった。悔いのない試合が出来て大変うれしい」と淡々と心境を語る。

三選手は、この日を目標に一カ月半前から一日おきに高岡市民体育館へ出かけ、一般で出場した高岡市役所チームの胸を借りた。土、日曜日は続けて高岡通いをしその努力で優勝を勝ち取ったのだ。

県本部役員に取り囲まれ、握手攻めの選手たちと少し離れた芝生の上で不破監督は、そっと涙をぬぐっていた。

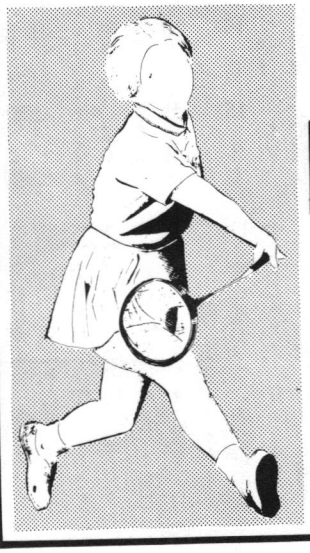
不破裕監督の留守宅＝上市町神明＝では妻の久子さん(三七)が、「連絡がないので心配していました。出発する前、インタハイで優勝を争った奈良にさえ勝てば何とかなるだろうと言ってました。家のことは放ったらかしで一生懸命にやっているだけに本当によかった」と〝バドミントン未亡人〟を嘆きながらもうれしそう。

一方、福井国体以来五年ぶり四回目の優勝に大きく貢献した西村正美選手＝富山商三年＝の兄美鶴さん(二)は四十一年インタハイ優勝の実績を持つという〝バドミントン兄弟〟だけに力の入れようも大きく「正美から二時ごろ電話で〝勝った〟と連絡があったときはとうとうやったかとわがことのようにうれしかった。出発前に〝負けられない。優勝をねらう〟と言って自信ありそうだったが、心配で落ち着かなかった。やっと安心しました。日ごろの熱心な練習の成果が実ったのでしょう」と国体出場を果たせなかった兄貴の夢を弟がかなえてくれた喜びを話していた。

（富山新聞）

実戦にもすぐ役立つ技術解説書近々発売

英国バドミントン協会プロ・コーチ ケネス・クロスリー著
日本バドミントン協会理事 後藤忠弘訳



バドミントン競技入門

B6判上製／800円

著者はバドミントンの本家、英国のプロ・コーチであり、英国全土をくまなく巡回し、あらゆるプレーヤーに接してきた。そうした経験から、彼の指導は初心者から上級者の全てに適します。あくまで基本に忠実に基礎をがっちり固めていくという指導法は、オーソドックスなもので、初心者には最適である。

■主要目次－〈出発進行〉スタートの前に／点の数え方／シャトルコック／〈基本のテクニック〉グリップ／リスト・アクション／フットワーク／〈ストロークの要点〉サービス／返球／オーバーヘッド・ストローク／ドライブ／〈試合展開と戦術〉

ベースボール・マガジン社

第一回日中大会をふりかえって

福岡大会を観戦して

毛利清志

日中対抗初の東京大会を観た筆者は、噂を上回る中国の実力に少なからず驚嘆した。すばらしいフットワーク、安定した力強いストロークが生み出す効果的な各種フライト、特に秀でたバネを利してのジャンプ・スマッシュにつながるスピーディな試合運び、そしてそれらの基になっているすぐれたアンティシペイション等々が筆者の脳裡に焼きついている。

強烈なそれらの印象を繰り返して味わっていた矢先、はからずも筆者は、NETから福岡大会のテレビ解説を依頼されて現地に馳せ参じた。ところが、コートから遠くはなれての高い位置からである上、ブラウン管を通して解説しながらの観戦であったので、コート・サイドのベンチ附近からの観戦に比べて、いささかそのとらえ方にくい違いがあるやもしれないことはお含みいただきたい。

さて、トップ・シングルスは日本のエース湯木と中国No.2の梁の対戦、梁は、東京、大阪、長崎の3大会とも、中国No.1陳と組んでダブルスにのみ出場して3戦全勝しているが、シングルスは来日以来初めてであり、しかも湯木との対決という点に見所があった。第1ゲーム、湯木はエラーが目立ちながらもよく攻めて9点までリードを続けた。しかし、強烈なラリーがやりとりされるごとに梁は次第に調子を上げ、一方の湯木は次第に下り坂に向っていった。9－9のセッティングに追いこまれるや、湯木の動きはピタッと止り、全く別人のように精彩を欠き、12－9と一気に押しきられた。第2ゲームの奮起に期待したが、湯木の疲労はその極に達し、11－3と目をおおいたくなるような試合内容となり、ファンをがっかりさせる結果となった。梁の脚・腰のすばらしさとバランスのとれた上半身は、若い（22才）だけにエース陳（27才）を上回るものがあり、近い将来中国を背負って立つエースたり得るとみた。因みに梁の来日中の対戦成績は、シングルス2勝0敗、ダブルス4勝2敗（2敗はパートナーが鄭）となっている。

第2試合のダブルスは、日本の新鋭西尾・秋本組に対し中国の鄭・許組の2度目の対戦となった。（大阪大会での初顔合せは、時間切れでオープンとなり中国組が15－8と優位に立っている。）立ち上り日本組はかたくなって、中国組も良いでき栄えでないのに高校生まがいのやりとりの結果15－10と中国組が取った。しかし、日本組は第2ゲームからかたさがとれて調子の波に乗り、不調な中国組を15－1と破り、第3ゲームも15－4とワンサイドに押し切った。場所や対手がどう変っても立ち上りから充分に実力が出しきれるように、アップによって汗を出し、精神面にも自信を持つことが西尾・秋本組の今後の課題とみた。

第3試合は日本の相沢・竹中組に対して中国の丘・林組である。相沢・竹中は今回ダブルスのみであり、東京では同じ林・丘組に2－1で勝っていて2度目の対戦である。相沢・竹中組は大阪・長崎の両大会ではNo.1の陳・梁組と対戦し2敗を喫しているのに対し、丘・林組は、長崎大会に於て西尾・秋本組を降しての顔合せとなった。この日中国組の不調もあったが、相沢の前陣速攻が美事なでき栄えであり。速い動きと深い読みにつながるリーチの広さがすばらしく、一方竹中も、柔軟な身体と手首を活かしてスマッシュの連打を浴びせ15－6、15－3と圧倒的な勝星を挙げた。相沢・竹中組は次の名古屋大会で同じ対手に4－15・8－15と敗れているが、最後の横浜では初顔合せの梁・鄭組を接戦ではあるがストレートに降して3勝3敗の勝率を残している。このペアは全英で2連勝を果した実績もあり、全日本総合でも3連覇を遂げていて、日本にとっては重要な存在であるだけに期待のかけられ方も大きいことを自覚し、いつ、どこであってもトップ・コンディションで持てる力量とコンビを存分に発揮できる心身両面のコンディショニングに終始してもらいたいと切望する。

第4試合は、地元福岡の期待を双肩に担った松尾対李のシングルスである。（李は来日メンバー中最年少の17才ながら長崎で初登場し、石崎を2－1で倒している。）立上り李はかたくなっていたせいか凡エラーが多く松尾のスマッシュやカットもよく決って11－8と第1ゲームを先取して地元のファンを湧かせた。ここで松尾がもう一試合取ってくれれば「我に利あり」と日本ベンチも晴れやかなムードとなった。しかし李の巧妙なアタックとねばりに松尾のエラーが目立ち始め、第2ゲームは7－11で落し、続く第3ゲームも4－11と敗れ地元ファンの期待に応えきれなかった。ワンエラーごとにさながら悲しそうな表情を示す松尾の戦い振りが筆者の脳裡にまざまざと残っている。

団体対抗のトータルが2－2のタイスコアになって第5試合は日本の若いホープ西尾が劉と対戦した。西尾のシングルスは初登場であるが、対する劉は、東京で湯木に1－2と敗れた他は、大阪で石崎を2－1で倒し、長崎ではダブルスに出場し、地元ペア柿本・樋口組をシャット・アウトして上潮に乗っての初顔合せであった。しかし、ダブルスで調子を上げた西尾は上々の滑り出しで劉を圧倒し、第1ゲームを11－8と先取して日本ベンチに光明をもたらした。ところが第2ゲームになると劉のフットワークとコントロールが西尾を上回って、7－11と逆転された。第3ゲームに期待したが、西尾の配球が甘いために劉に読みとられ3－11と惨敗した。西尾は次の横浜大会でも再度劉と対戦し、第1ゲームを先取し

ながら、福岡大会以上の点差で敗れていることから実力的に劉が強いとも考えられるが、課題としては、機先を制してせっかく第1ゲームを取ったのだから、単調な試合運びに終始せず、チェンジ・オブ・ペース等による作戦面に一工夫も二工夫もしなければなるまい。

最終戦のダブルスは、このシリーズ初めてのペアである日本の湯木・池田組に対し、中国は不敗を誇るNo.1ペア陳・梁組の対戦であった。身体にシビレを感じる程の疲労を、注射と休養によって回復した湯木の好リードによって、池田のかたさが次第にほぐれて内容の充実した試合展開となった。攻めても守ってもそつのない湯木が、すぐれたアンティシペイションに基づいて前陣でカキマゼ、対手のリターンの甘くなったところを池田がすかさず得意のスマッシュを連打するという形が続けばこのペアーは滅法強いが、第1ゲーム理想通りに進めて必死に喰いさがる陳・梁組を18－15と振り切った。ワン・インニングごとに密度の濃い長いラリーの応酬が繰り返され、双方秘術を尽してのやりとりは数千名の観衆の目を釘づけにし、また、伊藤監督をして「ウーン、これを観るためには数千円の入場料も高くはない」といわしめ、筆者にも「福岡まで馳せつけたかいがあった」と思わせて、なお余りあるすばらしい内容であった。第2ゲームは陳・梁組のコンビが上回り、先手々々とよく攻めて8－15と逆転されていよいよファイナル・ゲームにもつれこんだ。第3ゲームも激しい攻防の末、湯木の脚の負傷も手伝って11－15と惜敗し、日本チームはトータル2－4と涙をのんだ。梁の男まさりのジャンプ・スマッシュ、陳の秀でたテクニック等に対し、池田のバック・ハンドでのスマッシュの処理の甘さ（しばしば対手のエースとなる）と前陣でのリターンの大半を上げてしまう配球のまずさが勝敗の分岐点であり、池田の今後の課題といえる。陣・梁組の配球で筆者の脳裡に刻みこまれていることは、ショート・サービスのリターンをミドルにプッシュしてくること。浮いてきたタマは、対手のライト・コートに集中アタックすることの二点である。それがどのように有利に展開するかは紙面の都合もあるので読者諸氏の研究課題としておきたい。また、シングルスについては、フォアに回りこんで先制攻撃をすることに徹しているのが目についたが、この点は男子も同様であったように思う。

女子選手団に帯同して

高倉正治

九月三日、大阪を振り出しに、長崎、福岡、名古屋、と四つの大会に日本バドミントン協会代表として、選手団に同行して感じたことを、思い出すままに幾つか、箇条書きに書いて見たいと思う。短見にして、的を得ないことも多いと思われるので大方の御叱正を得たい。

㈠ 連続する大会のアイス・ブレーキングとなった大阪協会の運営

大阪につくまで、新幹線ではあまり親密でなかった選手達は、大阪大会、特に、そのレセプションで数多くの外語大学生等の通訳を用意し、両国関係者が自由に意志を通じ合えるチャンスを作られた大阪協会の運営で、急に親しくなり、それ以降、歌を教え合ったりあだ名をつけたり、言葉を習い合ったり、実になごやかとなり、本大会の目的の一つである親善に大変なプラスとなった。

㈡ 心温まる長崎の歓迎

どこでも心温まる歓迎を受けたが、長崎は華僑の方々の大変多いせいもあって、素朴で親しみのこもった歓迎を受けた。記念植樹、市長のユーモラスな試球式、華僑の人達との話し合い等、独特の演出は選手権大会と異りいわば国体的でこの種の大会として大変面白いものがあった。

㈢ 素晴しい会場と意義ある見学のあった福岡大会

福岡大会の会場は、涼しく広広とし、会場として大変立派なものであった。又この地で、はじめて観光、見学のチャンスがわずかであったが取り入れられ、しかも気持の良い福岡城跡と、大変立派な中国と日本の交流の二千年以上にわたる歴史を実に要領良くまとめた史料館の見学という、あっさりした観光はスマートであり大変印象的であった。この機会に両国選手は大いに記念写真を取ることが出来た。

㈣ 名古屋大会までを通して感じた両軍選手の戦いのあと

名古屋は私は所要のため一時帰京し、大会そのものしか体験していないのでこの名古屋大会までの両軍選手について述べて見たいと思う。

(イ)友好第一の中国チーム

友好第一、試合第二は中国の合言葉であったが、この旅行を通じて私はその真の意味が少しわかったように思う。私はこのスローガンは当初あまり気に入らず、試合は適当にして、もっぱら親善に努力すると解していたが、決してそうではなく、彼等は力の限りを尽して戦う。しかし、それ以上にその試合をする精神は、相手を尊重し、勝負に不必要にこだわらず、フェアーに気持よく、堂々と試合することだということがわかった。勝負第一からはどことなくゲームの品位が落ち勝ちであることは、我々が経験する所だと思う。大きくいえば、私は友好第一の裏は、既存の西欧を中心とした文明への跳戦の体育的表現と感じられた。

6連勝を果したハルトノ（インドネシア）の試合を数年前に観戦したときの記憶を呼び覚したのである。ハルトノもまた、ハイ・バックハンドが皆無に近いときは、底知れぬ強さを発揮すると銘記している。

特に東京大会で小島を15－3、15－6と翻弄した中国No.2の湯が、30点獲得するまでに使用したハイ・バックハンドがたった一度だけであったことは記憶に新しい。そしてそれはすかさず、全英男子シングルスで史上初の

㈡男性的な中国、女性的な日本

歌う歌が、中国は男性的、日本は女性的なように、ゲームもまたそうであったようだ。一月におけるヨーロッパ遠征の中国チームの成績から、中国は半年の間に大きく成長したようだ。それはダブルスの長足の進歩である。英国のダブルスに負けるようでは日本とは問題にならぬという点で、男子をケイ古台にした激しい訓練があったのではないだろうか。もう一つヨーロッパ遠征になかった事は、梁秋霞選手が加った事である。第二の陳玉娘としての彼女の存在は大きい。

㈢明るい日本選手に拍手を送る。

はじめて日本を訪れ、恐らく色々と不安の多い中国選手に日本選手は実に明るく、親切に接して中国の選手に気持の良い試合をさせることが出来た。私はこの若者達の昔の日本人には無かった良い点に対して心から拍手を送る。

㈣なりふりかまわぬ力強い鍛錬を日本選手に望む

福岡大会の時、来会された四国の穐山先生の言葉は私は日本チームに取って大切な忠言だと思う。あまり正確ではないが、先生は「中国チームを見て久しぶりにさわやかなものを感じた。唯ひたむきで、囲りに動かされない、素朴で原則に忠実な素晴しいプレイだ。日本選手は西欧諸国その他の国際交流で良い面と共に好ましくない面も身につけた。もう一度初心に帰り、なりふりかまわず、基本から、ひたむきな練習をすべきだ」という意味の言葉であったと思う。勿論、中国以上の幾つかのプレイが日本にはある。それは益々伸ばし、一方、穐山先生のこの言葉を銘記すべきであろう。

日中親善雑感

森友徳兵衛

一、横浜大会への車中で団長孫藍女史とお話をする機会を得た。中国の婦人はクリーム程度のお化粧しかしない。理由は皆がしないから一人だけ口紅をつけるのは恥しいからだそうである。婦人達は色ものや柄もののシャツは大好きで、ブラウスもそれぞれ皆着ているが、大柄のものや派手な色のものも同じ理由で着ない由。スカート姿も多く見られるがミニはいないと笑っていた。四十五才の女史は八才の娘さんがあり、誰でも一月十八円払えば国の施設で全部面倒を見てくれる（面会は週一回）との話。御主人も一月十八円で預ける人がいるのじゃないかと言って大笑いとなったが、それは一寸不便でしょうという答が返って来た。お話をしている内に私のイメージだった古き東洋の国中国は次第に目の前から消えて行って、そこに日常に〝結果〟のみを重視する現在の中国の姿が浮んで来た。ささやかな冷たささえ感じさせながら——。土地は全て国のもの（建物は私有のものもある）、生産会社は全て国のもの。即ち資本家も地主もいない社会が中華人民共和国である。私は私は自分の家と全く違う生活様式をとっている隣の家の玄関に立ったような気持がした。

二、中国チームベンチの選手の出し方は満点だったように思う。たとえせり合った試合や中国が敗けた試合であっても、彼等にとって予想した通りであり或いはそれなりのデータを完全につかんで帰国したに違いないとしか考えようがない。日本側も勿論それに負けない位中国チームから学びとったこととは思うが、どうもこのシリーズは選手の勝敗とは別にベンチの収穫に相違があるように感じられる。私の感じが間違っていることを祈っているが——。女子の勝負が日本の思ったように五分乃至六分で終始できていたならば、予想通りというその余裕で研究の主眼を男子に置けたと思う。長帳場の激戦で女子でも日本の方が次第に戦力を損耗したため、男子どころか協会執行部は女子の研究に主眼を置く破目となった。日中戦の意外性はこんな所が一番大きい。

このシリーズを通して残念だったことは大阪で湯木対陳のシングルが一ゲームのエキジビションに切かえられたことであった。

三、八年前の一九六五年にジャカルタで会った選手は男子では湯、侯、方の三羽烏と陳、呉選手。女子では陳玉娘、劉暁征で男子は二十二～三才、女子は十八～九才であった。この時のシャトルはインドネシア製アヒル羽のガルーダ印で、飛びすぎも甚しかったこと。日本は着いて三日目が試合で中国は四十日も滞在してガルーダで練習をしていたことなどのハンディがあった。併しそれをマイナスしても彼等は全く素晴しい青年達であった。速い。連続してスマッシュする。然も疲れを知らない。是非彼等と日本の選手と、R・S・Lを使って試合をさせて見たいと思った。その時の素晴しさは、全く八年の年月を考えさせない程マザマザと眼の前で再現したのである。ただ併し私は疲れを知らないと思っていた彼等の中で、方凱祥と劉暁征のシングルスのファイナルで彼等のスタミナの限界のようなものを仄かに見ることができたと思っている。

四、余りのなつかしさに〝ズミス氏都へ行く〟のTVを見た。一九三九年作品の由。私が十七才だった。当時の私はとても堪らぬ位アメリカの持つ自由、自由の表現という素晴しさに打たれたものであった。その時の日本は今と丸で違う社会だったからである。その時に見た素晴しさの一面は確かに今の日本に在る。併し前の時代を知らない者にとっては比較すべくもないのだから、今の人達には今の素晴しさはピンと来ていないのではないだろうか。自由という世界の境界から軌道を外れようとしているように感じる。中国の人に接して見て、中国は中国なりの良さがあることは認めながらも、私は改めて戦後に変った日本の今の社会の良さを一しお感じた次第である。

第一回訪中親善競技大会

男子は中国、女子は日本が辛勝——友好的に展開

第一回訪中バドミントン親善試合は、11月17日から24日まで中国各地で行なわれた。結果は男子1勝3敗1引分け、女子2勝1敗2引分けであった。

第1戦（11月17日午後7時・北京主都体育館）

▽男子

日本2（単0—2、複2—0）2中国
- 遠藤 好男 0 — 7—15 9—15 — 2 陳新輝
- 秋山 真男 1 — 2—15 17—14 9—15 — 2 瘦東疾
- 池田 信孝 2 — 15—7 15—11 — 0 周克倹
- 梅野尾昌一 — 15—10 15—7 — 0 陳新輝
- 今泉 勉 2 — 15—10 15—7 — 0 庾耀東
- 本間 順次 — 11—1 4—11 11—2 — 1 刈 霞
- 湯木 博江 2 — 11—3 11—5 — 1 李 芳
- 西尾真理子 — 15—5 15—10 11—15 — 1 何翠玲
- 秋本八代美 2 — 5—11 11—5 — 2 唐安平
- 石崎 茂子 0 — 15—3 15—6 — 0 唐安平
- 相沢マチ子 — 15—3 15—6 — 0 刈 霞
- 竹中 悦子 2 — 6—15 15—12 2—15 — 1 陳玉娘
- 相沢マチ子 — 17—14 15—13 15—12 — 1 梁秋霞

第2戦（11月19日午後7時・北京工人体育館）

▽男子

日本2（単0—2、複2—0）2中国
- 秋山 真男 0 — 3—15 4—15 — 2 湯仙虎
- 池田 信孝 — 5—15 7—15 — 2 方凱祥
- 梅野尾昌一 0 — 15—5 15—7 — 2 陳天祥
- 本間 順次 0 — 15—6 15—6 — 2 侯加昌
- 西尾真理子 — 15—14 15—13 — 0 丘玉芳
- 秋本八代美 2 — 14—15 15—13 — 0 林有雅
- 竹中 悦子 2 — 15—14 15—12 2—15 — 1 陳玉娘
- 相沢マチ子 — 14—17 15—13 15—12 — 1 梁秋霞

第3戦（11月21日午後7時・上海江湾体育館）

▽男子

日本（単2—0、複2—0）0中国
- 秋山 真男 2 — 15—18 10—15 — 0 陳新華
- 梅野尾昌一 — 15—15 15—6 14—15 — 1 載金良
- 本間 順次 勉 2 — 15—15 2—15 — 0 顔世強 林野更
- 今泉 谷口 寛 田所 光男 2 — 15—15 17—15 — 0 載金良 蔡雄佑

▽女子

日本2（単1—1、複1—1）0中国
- 柴山きよ子 0 — 7—11 11—1 — 2 刈 霞
- 西尾真理子 2 — 11—3 3—11 — 0 厳友英



▽男子

日本1（単0—2、複1—1）3中国
- 竹中 悦子 相沢マチ子 0 — 7—15 7—15 — 2 陳玉娘 郑恵明
- 湯木 博江 池田 美加 2 — 15—4 15—6 — 0 向明玲 涂棚芳

第4戦（11月22日午後7時・上海江湾体育館）

▽男子

日本1（単0—2、複1—1）3中国
- 本間 順次 0 — 3—15 5—15 — 2 湯仙虎
- 遠藤 好男 0 — 11—15 5—15 — 2 陳天祥
- 池田 信孝 梅野尾昌一 2 — 15—10 15—10 — 0 蒋从良 郑青金
- 今泉 勉 本間 順次 1 — 8—15 15—11 12—15 — 2 湯仙虎 陳天祥

▽女子

日本1（単0—2、複1—1）3中国
- 湯木 博江 0 — 5—11 4—11 — 2 刘暁征
- 石崎 茂子 1 — 3—11 6—11 11—8 — 2 邱玉玲
- 竹中 悦子 相沢マチ子 2 — 15—12 15—12 8—15 — 1 丘玉芳 林有雅

第5戦（11月24日・広東広州体育館）

▽男子

日本1（単0—2、複1—1）3中国
- 西尾真理子 秋本八代美 1 — 2—15 9—15 15—12 — 2 邱玉玲 翁健徳
- 本間 順次 0 — 4—15 2—15 — 2 侯加昌
- 秋山 真男 0 — 11—15 6—15 — 2 方凱祥
- 池田 信孝 梅野尾昌一 2 — 15—9 15—7 — 0 周克倹 庾耀東
- 今泉 勉 本間 順次 0 — 7—15 9—15 — 2 方凱祥 侯加昌

▽女子

日本（単0—2、複2—0）2中国
- 湯木 博江 0 — 8—11 4—11 — 2 梁秋霞
- 竹中 悦子 1 — 2—11 8—11 11—7 — 2 潘祝英
- 湯木 博江 池田 美加 2 — 15—10 15—9 — 0 梁秋霞 潘祝英
- 竹中 悦子 相沢マチ子 2 — 15—6 15—8 — 0 朱超琴 李 方

第24回全日本学生選手権大会

中央大学と日本体育大学が栄冠を獲得

第24回全日本学生選手権大会は、去る11月5日から7日まで福岡において開催されたが、男子は中央大学が日本大学を破り、秋季リーグ戦の雪辱をはたし、女子も日本体育大学が日本女子体育大学を降した。

個人戦男子シングルスでは、銭谷（中大）が安定した強さをみせ優勝、同ダブルスでは、飯野・土田組（日大）が接戦のすえ、尾崎・銭谷組（中大）を降した。

一方女子シングルスは混戦模様となり、古谷（日体大）が、同ダブルスでは、池田・塩崎組（日女体大）が底力を発揮して優勝した。

本大会に先だって行なわれた第22回全日本学生東西対抗競技大会は東軍の圧勝に終わった。

東西対抗

〔男子〕

東軍 7（複2－1、単5－1）2 西軍

○飯野・土田 2（15－13、15－4）0 加治屋・工藤（熊本商大）
○舟山・村谷（日大） 2（7－15、15－9、15－10）1 菅原・佐野（近大）
須藤・栗原（日体大） 1（15－12、4－15、7－15）2 ○大東・米（福岡大）
○土江田（早大）・山下（関大） 2（15－16、15－5、13－15）1 日下（中大）・坂本（熊本商大）
○松口（早大）・江口（福岡大） 2（15－3、15－5、15－9）0 尾崎（中大）・銭谷（福岡大）

東軍 5（複2－0、単3－0）0 西軍

○佐藤（日体大） 2（15－12、15－3）0 工藤（熊本商大）
本間（早大） 1（4－15、15－7、17－18）2 ○米（福岡大）
○尾崎（中大） 2（15－12、15－4）0 大東（福岡大）

〔女子〕

○石田・吉田（日女体大） 2（15－7、15－5）0 原田・栗原（武庫川女大）
○秋本（日体大）・西尾 2（15－0、15－1）0 中尾・狭川（松陰女大）
○千葉（日女体大） 2（11－1、12－10）0 望月（福岡大）
○清水（日女体大） 2（11－5、11－8）0 松尾（福岡大）
○陣内（日体大） 2（11－6、11－1）0 原田（武庫川女大）

（総合成績は東軍の18連勝で通算21勝1敗）

男子団体戦

▽準々決勝

日本大学3－2熊本商科大学
日本体育大学3－0近畿大学
中央大学3－1早稲田大学
法政大学3－1青山学院大学

▽準決勝

日大 3（複2－0、単1－0）0 日体大

○飯野・土田 2（15－8、15－4）0 佐藤・高橋
○舟山・村谷 2（15－9、15－6、15－8）1 桐生・志子田
○土田 2（15－11、15－5）0 佐藤

〔評〕 第1ダブルスは佐藤・高橋組にレシーブの甘さが目立ち、また飯野・土田組のスピードについてゆけず、ストレートで日大ペアが取った。

第2ダブルスは、舟山・村谷組にミスが連続し、第1ゲーム



男子団体戦優勝の中央大学チーム

簡単に先取された。しかし、第2ゲームからよく立ち直り、2、3ゲームを連取した。

シングルスでは、両校ナンバーワンの対決ということで白熱した試合が期待されたが、佐藤は疲れが残っていたのか動きに精彩がなく一矢を報いることができなかった。（学連・中島）

中大 3（複2－0、単1－0）0 法大

○尾崎 2（15－4、15－7）0 下田 銭谷

○日下 2（15－15、15－5）0 斎藤 山本 巽

○尾崎 2（15－15、4－15、5－0）0 下田 銭谷

〔評〕 法大は、準々決勝で中井・辻のペアが疲労したためか、米山・下田組は、調子が出ず、1ゲーム目あっさりと敗れた。第2ゲームにはいり、ようやくねばりをみせよく食いついたが、尾崎・銭谷組は高いところからの鋭いスマッシュを決め、押し切った。

第2ダブルスも中大ペアは相手のミスを逃さぬ沈着なプレーで圧倒した。

シングルスは、富山商高のOB同士の一戦となったが、尾崎は後輩を寄せつけず、決勝進出を決めた。（学連 中島）

▽決勝

中大 3（複1－1、単2－0）1 日大

○尾崎 1（4－15、7－15、15－11）2 飯田 銭谷

○日下 2（15－6、15－6、16－18）1 舟谷 山本 村

○銭谷 2（15－6、15－9）0 九原

○尾崎 2（15－5、15－7、8－15）1 土田

〔評〕 秋季リーグ戦では、この対戦は日大に軍配が上がったが、中大が雪辱をはたせるかどうかが焦点であった。

第1ダブルス、日大ペアは尾崎に球を集める作戦にでて、中大ペアのコンビネーションを乱そうとしたが、中大ペアはネット際でせり勝ち第1ゲームをとる。しかし、続く第2、3ゲームは、ミスが多くなるとともに、尾崎・銭谷二人の歯車が狂いだし、自滅の形で敗れた。

第2ダブルス、中大ペアは第1ゲームを接戦で落とすも、第2ゲーム以降、積極的に攻撃に転じ、1－1のタイにもち込んだ。

第1シングルスは両者よく打ち、よく拾ったが、銭谷は攻撃力にまさり、守りからすばやく攻めに切りかえ2－0で勝った。

第2シングルス、いまひとつ調子の波に乗れない尾崎は第一ゲームを落とし、苦しい出足となった。しかし、よくつなぎ、土田のミスを誘い出し、ファイナルにもちこみ、第三ゲームも土田につけ入らせず、押し切るとともに優勝を決めた。（学連・中島）



女子団体戦優勝の日本体育大学チーム

女子団体戦

▽準決勝

日本体育大学 3（複2－0、単1－0）0 青山学院大学

○西尾 秋本 2（15－6、15－4）0 漆畑 鈴木

○佐伯 古谷 2（15－1、15－3）0 白玖 坂本

○秋本 2（11－3、11－2）0 漆畑

〔評〕 第1ダブルス、日体大ペアは、シャトルを常に沈め、余裕をもってストレート勝ちした。第2ダブルス、日体大ペアは、前衛でストップし、青学大ペアの食い下がりを許さず完勝した。シングルス、秋本はよく球を散らし、奥へ添畑を追い込み、ストレート勝ちした。（学連・吉田）

日本女子体育大学 3（複2－0、単1－0）0 東京女子体育大学

○池田 塩崎 2（14－4、15－9）0 名和 矢口

○石田 吉田 2（15－7、18－15）0 外崎 長谷川

○池田 2（11－5、3－11、11－4）1 木村

〔評〕 第1ダブルス、池田・塩崎組は全く相手を寄せつけず、第2ダブルスは、外崎・長谷川組がよく食い下がり、第2ゲーム、セッティングにもち込んだ

銭谷順当に優勝
女子は古谷が混戦を抜けだす

が、ポイントをあげるには至らなかった。

シングルス、池田はスマッシュを武器に攻めたてるのに対し、木村はドロップを主体にコーナーをよくつき、ファイナルゲームにもつれ込んだ。しかし、池田はあわてることなく、自分のペースで勝った。（学連・渡辺）

▽決勝

日体大 3（複2－0 単1－0）0 日女体大

○西尾 秋本 2（15－2 15－12）1 池田 塩崎

○佐伯 古谷 2（15－8 15－4）0 石田 吉田

○西尾 2（11－7 0－11 11－8）1 池田

〔評〕 第1ダブルス、西尾・秋本組が、第2ゲームから調子をあげ、正確なラリーを続けたのに対し、池田・塩崎組は第1ゲームの調子を持続できず、貴重なポイントを失った。

第2ダブルス、日体大ペアは第1ゲーム中盤から自分たちのペースに乗せ、元気のない石田・吉田組に完勝、つづくシングルスでは、西尾が第2ゲームをあっさりと敗れたものの、要所要所をしめ、ねばり勝ちした。決勝にふさわしい見ごたえのある一戦だった。（学連・細川）

男子シングルス

▽準々決勝

銭谷（中大）2－0辻（法大）

松口（早大）2－0小玉（青学）

舟山（日大）2－0中井（法大）

須藤（日体）2－1工土（熊商）

▽準決勝

○銭谷 2（17－14 15－9）0 松口

〔評〕 第1ゲーム、スマッシュの応酬で始まり、スピードのある好ゲームとなった。松口は14－11とゲームポイントをつかむが、どうしてもあと一本がとれず、結局14－17と惜しいゲームを落とす。落胆する松口に対し、意気あがる銭谷は、終始リラックスし、余裕あるプレーで第2ゲームをとり、決勝へ進出した。（学連・佐藤）

○舟山 2（15－2 9－15 15－6）1 須藤

〔評〕 舟山は第1ゲーム、ドリブン・クリアーで速く攻め、浅くなるところをスマッシュで決めた。しかし2ゲーム目にはいると、須藤はクロスへのスマッシュを有効に決め、ファイナルへともち込んだ。しかし、ネットへのミスやドロップ・ショットのミスが多くなり、あっさりと敗れ去った。（学連・中島）

▽決勝

○銭谷 2（15－11 15－12）0 舟山

〔評〕 第1ゲーム、舟山は銭谷のミスにつけこみ、9－3とリードしたが、銭谷はスマッシュを多用し、逆転。第2ゲームも舟山は銭谷のミスをうまく誘い、ポイントを連取したが、結局決め球をもつ銭谷は押し切って、学生チャンピオンの座についた。（学連・大川）

女子シングルス

▽準々決勝

古谷（日体）2－0矢口（東女体）

北島（日体）2－0陣内（日体）

塩崎（日女体）2－0樋口（日女体）

石田（日女体）2－0秋本（日体）

▽準決勝

○古谷 2（11－9 11－5）0 北島

〔評〕 第1ゲーム、古谷は北島にリードを許したがよく追いつき、第2ゲームも、10－1と大きく引き離し、北島を寄せつけず決勝へ進出した。（学連・細川）

○塩崎 2（11－6 11－2）0 石田

〔評〕 手の内を知り尽した者同士の対戦。石田のスタートはよかったが塩崎はよくねばって一気に逆転し、2ゲーム目も一気に勝負をきめた。（学連・大川）

▽決勝

○古谷 2（11－9 11－5）0 塩崎

〔評〕 出足古谷は固くなったのか、ミスを連発していたが、落ち着きをとりもどすとともにシャトルを拾いまくり、逆に塩崎のミスを誘い出した。1ゲームを接戦の末落とした塩崎は、疲れが目立つようになり、第2ゲームはあっさりと敗れ去った。

初優勝をとげた古谷は、若さで徹底的にねばりをみせ、連戦で疲れのでた塩崎を押し切った。（学連・佐藤）



男子シングルス準優勝の舟山

飯野・土田組スピードで圧倒
池田・塩崎組ここ一番で底力を発揮

男子ダブルス

▽準々決勝

舟山・村谷（日大）　2－1　日下・山本（中大）

中井・辻（法大）　2－1　栗栖・山村（中大）

尾崎・銭谷（中大）　2－0　佐藤・高橋（日体大）

飯野・土田（日大）　2－0　米山・原（法大）

▽準決勝

中井・辻　2（15－9、15－6）0　舟山・村谷

〔評〕　戦前は舟山・村谷組優勢とみられていたが、いざフタをあけてみると、中井・辻組は若さにモノをいわせ、打ちまくり、また辻はレシーブが非常にさえており、舟山のスマッシュを切りかえし、前に出てアタックするという理想的な試合運びで圧倒した。（学連・大川）

飯野・土田　2（18－16、15－10、12－15）1　尾崎・銭谷

〔評〕　かたときも目を離せない内容のある好ゲームだった。すばやいネットへの突っ込みを武器に、また正確なレシーブでスピーディに動く日大ペアと、高い位置からのスマッシュを武器に攻めまくる中大ペアは、お互いに持てる力を十分に発揮して戦った。1－1のあとファイナルゲームも13オールのセッティングとなった。結局日大ペアが勝ったが、中大ペアにも勝機はあり、運、不運というできであろう。（学連・中島）

▽決勝

飯野・土田　2（15－6、15－10）0　中井・辻

〔評〕　中井・辻の一年生ペアがどこまでやるか注目されたが、第1ゲームは飯野・土田に圧倒されて、ほとんど攻撃らしい攻撃もできなかった。しかし、第2ゲームはよくがんばり、9－10までついていったが、ここでミスを連発し、結局逆転はならなかった。日大ペアの安定したプレーに対し、法大の一年生ペアは、準決勝にくらべると多少ミスが多く、雑な面があったようで、今後、コンスタントに力を発揮することが課題であろう。しかし、一年生ながら決勝にまで残ったのは立派である。（学連・岡部）

女子ダブルス

▽準々決勝

池田・塩崎（日女体）　2－0　白玖・坂本（青学大）

樋口・鈴木（日女体）　不戦勝　佐伯・古谷（日体大）

石田・吉田（日女体）　2－1　千葉・松田（日女体）

西尾・秋本（日体大）　2－0　森田・市村（東女体）

▽準決勝

池田・塩崎　2（15－6、15－3）0　樋口・鈴木

〔評〕　佐伯・古谷の棄権でベスト4入りした樋口・鈴木ペアにとって、池田・塩崎組のカベは厚く、あっさりと敗れた。

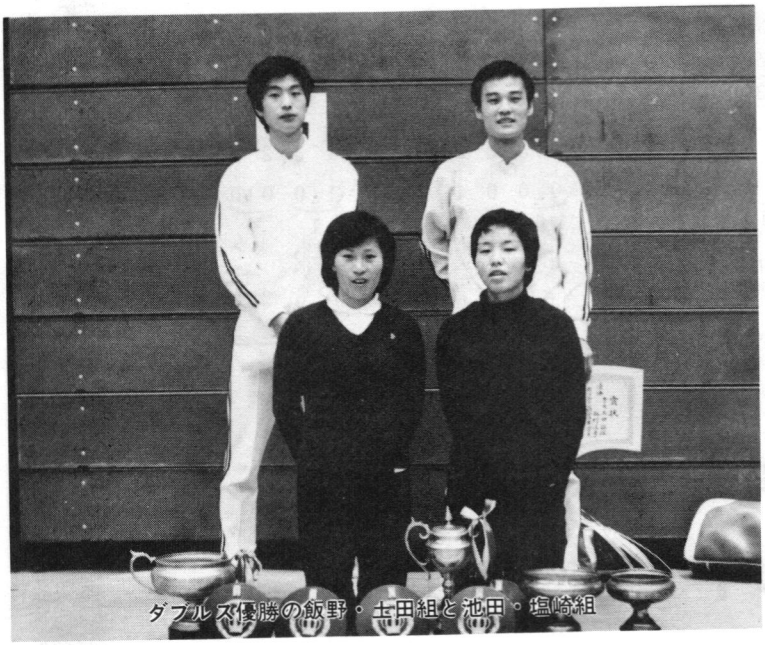
西尾・秋本　2（15－4、15－10）0　石田・吉田

〔評〕　第1ゲーム、両者ともに波に乗れず、モタモタとしていたが、石田・吉田組のミスにつけこみ、西尾・秋本組は第1ゲームを辛くもとった。第2ゲームにはいると、西尾・秋本は自分のペースをつかみ、あっさりと勝ちとった。（学連・加藤）

▽決勝

池田・塩崎　2（15－11、15－0、10－15）1　西尾・秋本

〔評〕　第1ゲームを落とした池田・塩崎組は、第2ゲームにはいると塩崎が前でシャトルを沈め、池田が後でたたくという理想的な形で波に乗り、第2ゲームを0でとり、タイとした。ファイナルゲーム、前半8－4と、西尾・秋本リードで折り返す。しかし、池田はスマッシュをよく決め、塩崎も冷静に配球をし、逆転勝ちをおさめた。（学連・中島）



ダブルス優勝の飯野・土田組と池田・塩崎組

48年度秋季リーグ戦

日本大学、日本女子体育大学が接戦の末優勝

昭和48年度関東学生秋季リーグ戦は、去る10月5日から江戸川区総合体育館、駒沢体育館で行なわれたが、男子は日本大学が、女子は日本女子体育大学がそれぞれ優勝した。

男子

▽第一日

中央大学7（単4－0 複3－0）0 日本体育大学
日本大学5（単3－0 複2－1）1 日本大学
日本大学5（単2－2 複3－0）2 早稲田大学
法政大学6（単4－0 複2－1）1 青山学院大学

▽第二日

中央大学6（単3－1 複3－0）1 青山学院大学
日本大学5（単3－1 複2－1）2 日本大学
早稲田大学4（単3－1 複1－2）3 法政大学

▽第三日

中央大学7（単4－0 複3－0）0 早稲田大学
日本大学6（単3－1 複3－0）1 法政大学
日本体育大学5（単2－2 複3－0）2 青山学院大学

▽第四日

中央大学6（単4－0 複2－1）1 法政大学
日本大学5（単3－1 複2－1）2 青山学院大学
日本体育大学4（単3－1 複2－1）3 早稲田大学
日本大学4（単3－1 複1－2）3 中央大学

▽第五日

日本体育大学4（単3－1 複1－2）3 法政大学
早稲田大学6（単3－1 複3－0）1 青山学院大学

成績・1位＝日本大学5勝、2位＝中央大学4勝1敗、3位＝日本体育大学3勝2敗、4位＝早稲田大学2勝3敗、5位＝法政大学1勝4敗、6位＝青山学院大学5敗

女子

▽第一日

日本体育大学4（単2－1 複2－0）1 青山学院大学
日本女子体育大学5（単3－0 複2－0）0 早稲田大学
東京女子体育大学5（単3－0 複2－0）0 昭和女子大学
日本体育大学5（単3－0 複2－0）0 昭和女子大学
日本女子体育大学5（単3－0 複2－0）0 青山学院大学

▽第二日

東京女子体育大学5（単3－0 複2－0）0 早稲田大学
日本体育大学5（単3－0 複2－0）0 昭和女子大学
日本女子体育大学4（単3－0 複1－1）1 東京女子体育大学
青山学院大学5（単3－0 複2－0）0 昭和女子大学

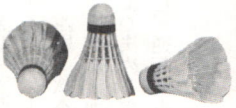
▽第三日

日本体育大学5（単3－0 複2－0）0 早稲田大学
日本女子体育大学4（単3－0 複1－1）1 東京女子体育大学
青山学院大学5（単3－0 複2－0）0 昭和女子大学

▽第四日

日本体育大学4（単2－1 複2－0）1 東京女子体育大学
日本女子体育大学5（単3－0 複2－0）0 昭和女子大学
青山学院大学5（単3－0 複2－0）0 早稲田大学
日本女子体育大学3（単2－1 複1－1）2 日本体育大学
東京女子体育大学3（単1－1 複2－0）1 青山学院大学
早稲田大学3（単1－1 複2－0）1 昭和女子大学

成績・1位＝日本女子体育大学5勝、2位＝日本体育大学4勝1敗、3位＝東京女子体育大学3勝2敗、4位＝青山学院大学2勝3敗、5位＝早稲田大学1勝4敗、6位＝昭和女子大学5敗

水鳥 検定合格球
ファストゴールド
ファストシルバー



ファスト印シャトル コック 製造発売元
有限会社 ジャワ商会
山形市六日町7の28
電話0263(33)0333(代表)

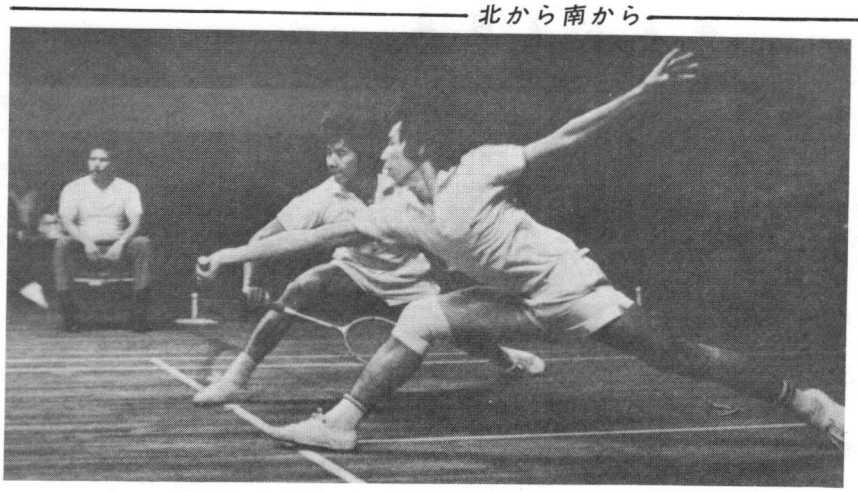
審査合格用具

銘柄名		会社名
シャトルの部		
インターナショナルハタチハネエース（1打）	¥2,400	羽立工業株式会社
ナイロンシャルルコック“メイビス”（1打）	¥1,800	株式会社ヨネヤマラケット
ラケットの部		
No.B60 スワニー（SWANNY）	¥3,800	大阪合繊株式会社
No.B56 エクセレント（EXCELLENT）	¥3,500	〃
No.B50 ハイスピード（HY-SPEED）	¥3,500	〃
No.B45 ハイトーマス（HY-THOMAS）	¥3,000	〃
No.B40 フィアレス（FEARLESS）	¥2,500	〃
No.B35 プロフェショナル（PROFESSIONAL）	¥2,400	〃
No.B30 フェニックスインピリアリ（PHOENIX IMPERIAL）	¥1,700	〃
No.9000 ハイステンレス	¥3,800	株式会社ヨネヤマラケット
No.8000 アルミナハイパワー	¥4,000	〃
No.7000 アルミナエース	¥4,000	〃
No.6500 トップエース	¥3,500	〃
No.6000 ファイブエースデラックス	¥3,500	〃
No.5000 ファイブエース	¥3,200	〃
No.3000 カレッヂエイト	¥2,300	〃
No.2000 キングダイヤ	¥1,800	〃
No.1000 クインハート	¥1,500	〃
No.10 スリーエース	¥1,400	〃
No.8 スリーエイト	¥1,200	〃
No.7 ラッキーセブン	¥980	〃
カァルトンラケット 3.7X	¥6,300	メトロレジャー株式会社
カァルトンラケット 3.7	¥6,300	〃
カァルトンラケット 3.9	¥5,700	〃
キャリー 7S フレーム	¥3,500	〃
キャリー 7G	¥2,500	〃
No.B−70 セブンティー	¥5,000	河崎ラケット工業株式会社
No.B−69 ブルーリース	¥3,500	〃
No.1200 スタミナデラックス	¥2,500	〃
No.1000 スタミナ	¥2,200	〃
No.204 ファインストローク（張り上げ）	¥1,400	〃
No.206 エバーウイン（張り上げ）	¥1,200	〃
No.210 ハードショット（張り上げ）	¥1,000	〃
No.201 ウイニングコース	¥1,500	〃
オールスチールハタチグラード	¥3,000・3,500 4,000 3種類	羽立工業株式会社
ハタチダイヤトーン	¥2,000	〃
No.8 ウインナー	¥1,100	株式会社トヨダスポーツ
No.1000 ニューミニ	¥1,500	〃
No.2000 ニューブラック	¥1,700	〃
No.7 シルバー	¥850	〃
ティピカル No.7	¥950	株式会社諸江製作所
ダンデイ No.800	¥1,150	〃
スナップ No.900	¥1,350	〃
シルバーデラックス No.1000	¥1,500	〃
キングクリッパー No.2000	¥1,800	〃

銘柄名		会社名
キングアロー No.2500	¥2,300	株式会社諸江製作所
ゴールドキング No.3000	¥2,800	〃
キングメイト No.3500	¥3,500	〃
ダンロップマックスプレイフォート	¥3,500	〃
ウェアーの部		
No.120 ショートパンツ	¥2,500	株式会社ヨネヤマラケット
No.121 ショートパンツ	¥1,600	〃
No.122 ショートパンツ	¥1,400	〃
No.142 シャツ（男子）	¥1,500	〃
No.141 シャツ（男子）	¥1,300	〃
No.140 クールネックシャツ	¥1,300	〃
No.241 シャツ（女子）	¥1,300	〃
No.242 シャツ（女子）	¥1,500	〃
No.243 ノースリーブシャツ（女子）	¥1,300	〃
No.200 巻きスカート	¥2,000	〃
No.201 フレアスカート	¥1,500	〃
No.203 プリーツスカート	¥1,300	〃
No.532 ショートパンツストレッチ（男子）	¥2,000	河崎ラケット工業株式会社
No.535 ショートパンツ（男子）	¥1,500	〃
No.500 半袖シャツ（女子）	¥1,400	〃
No.510 半袖シャツ（女子）	¥1,000	〃
No.505 ノースリーブシャツ（女子）	¥1,400	〃
No.517 長袖ハイネックシャツ（女子）	¥2,000	〃
No.590 スコート（フレアー）	¥1,700	〃
No.595 スコート（プリーツ）	¥1,300	〃
No.502 長袖シャツ（女子）	¥1,600	〃
No.594 （巻スカート）	¥2,000	〃
No.516 半袖ハイネック（女子）	¥1,800	〃
No.508 半袖ライン入りシャツ（女子）	¥1,600	〃
No.508 半袖ライン入りシャツ（男子）	¥1,600	〃
No.517 長袖ハイネックシャツ（男子）	¥2,000	〃
No.580 半袖シャツ（男子）	¥1,400	〃
No.510 半袖シャツ（男子）	¥1,000	〃
No.502 長袖シャツ（男子）	¥1,600	〃
No.516 半袖ハイネックシャツ	¥1,800	〃
No.422 ゴーセンハーモニウエアープリーツスカート	¥1,400	大阪合繊株式会社
No.425 ゴーセンハーモニウエアープリーツスカート	¥2,000	〃
No.426 ゴーセンハーモニウエアー巻スカート	¥2,000	〃
No.373 ゴーセンハーモニウエアー半袖シャツ	¥1,500	〃
No.370 男子半袖シャツ（無地）	¥1,000	〃
No.371 女子半袖シャツ（無地）	¥1,000	〃
No.400 男子半ズボン（白）	¥1,200	〃
No.427 巻スカート	¥1,600	〃
No.372 ゴーセンハーモニウエアー半袖シャツ	¥1,500	〃
No.405 ゴーセンハーモニウエアーショートパンツ	¥1,800 大1,900	〃
シューズの部		
バドミントンシューズ	¥1,600	株式会社ヨネヤマラケット
No.396 バドミントンシューズ		河崎ラケット工業株式会社

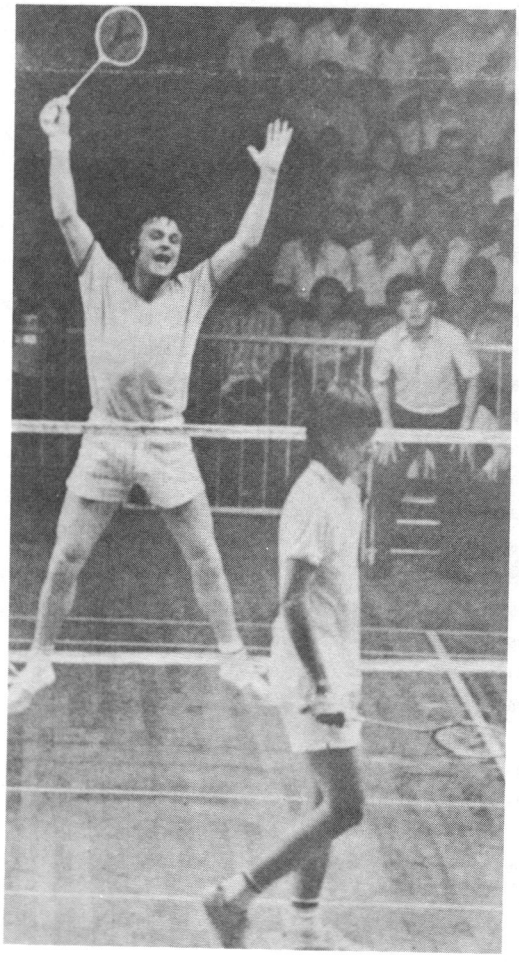
一九七三年のトマス杯大会はインドネシアのジャカルタで去る5月25日から6月3日まで行なわれ、インドネシアが予想通り優勝したが、この大会でずっと無敗を誇っていたインドネシアのルディ・ハルトノがデンマークのエース、スペンド・プリに12－15、15－5、15－17で敗れる番狂せがあった。

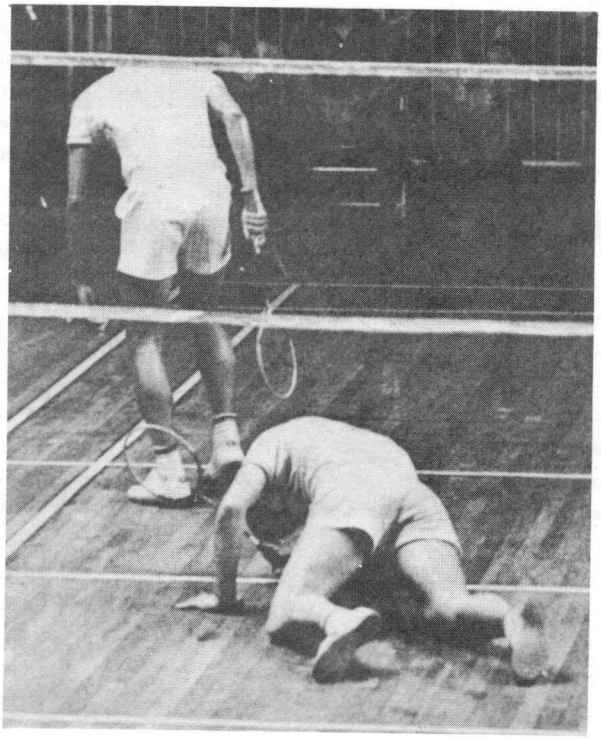
この大会の模様を伝えるカナダバドミントン協会の〝バドミントン・レビュー〟が手もとに届いたので、その写真の一部をご紹介する。



シャトルに飛びつく２本のラケット!!

インドネシアの大型ダブルス，ルディ・ハルトノ，チュンチュン組の猛烈な突っ込み。チュンチュンがセンターに来たシャトルをフォアハンドでとらえようとしているが，パートナー，ルディ・ハルトノもバックハンドでとらえる構えである。





プリがっくり……しかし，奇跡の逆転

プリは長いラリーの末，ハルトノのショットを返すことができず，がっくりとヒザをついたが，最後まであきらめずねばり，遂にハルトノの厚い壁を破った。その瞬間，プリはとびあがり，ハルトノはぼう然と立ちつくした。

小島選手、スポーツ店をオープン

港ヨコハマ モトマチに





昨年暮れの12月22日、小島一平さん（元ヨネヤマ）は、鈴木正造さん（同）、宮川秀樹さん（元河崎ラケット）とともに、スポーツ店・ラケットショップ元町をオープンした。

場所は横浜駅から国電根岸線で3つ目の石川町駅、歩いて1分のところ。港ヨコハマの有名な元町商店街のすぐそばで落ち着いた雰囲気のところである。

当日は、午前10時の開店だったが、開店と同時に、近くの商店のご主人方がかけつけ、また近くの女子高校のバドミントン部員が押しかけ、大騒ぎ。

高校生は買物がすんでも、今度はサインねだり。小島さんはいうまでもなく日本のナンバーワン、宮川さんも小島さんと組んで現在国体3連勝ということで、地元の高校生には憧れのまとといったところ。

そうするうちに湯木、相沢、竹中の各選手がお祝いにかけつけ、ますますにぎわいをます。お店で小島さんたちが応待しているだけでなく、奥では小島夫人や宮川さんのフィアンセのO嬢がお茶のサービス。

小島さんは、「品物を売るだけでなく、若い人たちへのアドバイスなども積極的にやっていきたい」という。

鈴木さんは、「最近の製品のものすごい値上りには全く閉口です」というが、スポーツ用品もインフレの例外ではないといったところ。

宮川さんは、結婚を間近に控え、多忙な毎日のようだが、O嬢の協力よろしきを得て、持ち前のファイトで大いに頑張るという。

午後になると、勤務を終えた人々が訪れ、サロンの雰囲気。夜には神奈川県人会の松本さんや金子さんが一升ビン持参でかけつけ、夜遅くまでグラスのやりとりが続いた。

北から南から

京都市青年の家 バドミントン大会開催さる

京都の勤労青少年の憩いの場として親しまれている青年の家スポーツ大会が11月4日東山青年の家において行なわれた。今大会で四回目を数え、勤労青少年にとっては、数少ない交歓の場とあって巾広い層からの出場があり、熱戦がくりひろげられた。中には珍プレーもとびだし体育館内は笑いの渦となる場面もあり、楽しいバドミントン日となった。

男子単で、過去三連勝の高藤は、肩・指の負傷にもめげずに、うまく足をつかい、あわやという場面にもチャンスをよく自分のものにして、青年の家初の四連勝の栄冠をつかんだ、女子単の中村は初優勝。

青年の家別では、常日頃の練習量と若さの東山が他青年の家を圧倒した。

男子シングルス

▽準々決勝

高藤（東山）2－0山下（中京）
浦　（東山）2－0島　（中京）
高木（東山）2－0辻川（西陣）
東村（東山）2－0深谷（東山）

▽準決勝

高　藤　2（15－10　15－10）0　浦
高　木　2（15－9　15－5　14－18）1　東　村

▽決勝　高藤四回目連続優勝

高藤哲岳　2（15－4　15－9）0　高木　聡

女子決勝リーグ順位

①中　村（東山）3勝0敗
②射　場（東山）2勝1敗
③村　田（西陣）1勝2敗
④佐々木（中京）0勝3敗

中村活子（東山）は初優勝。

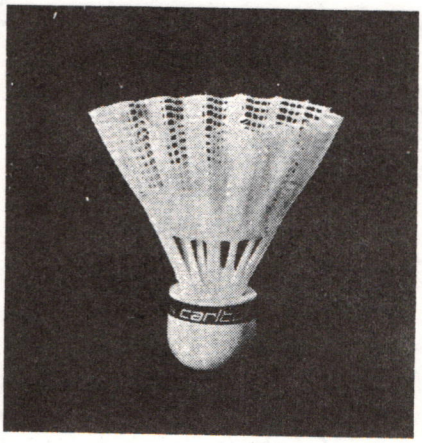
（京都青年の家大会実行委員会バドミントン部）

カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。





ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

どんな本を読んだらよいか
初心者から上級者まで
英語の勉強もできる……

最近、バドミントンに関する参考書を紹介してほしいという注文が多くなっていますので、新刊を中心にいくつかご紹介します。

まず、昨年秋に出版されたもので、「**バドミントン——勝つための秘訣**」（堺栄一著・講談社、八八〇円）がある。これはそのサブタイトルが示すように、勝つためにはどうしたらよいかという実戦向きの書である。

著者の堺さんは河崎ラケット勤務で、名ダブルスプレーヤー。内容は豊富に写真を使い、写真集としても十分に楽しめる。従来の参考書ではものたりなかった人も、この書には満足できるであろう。

次に、昨年暮れに刊行された「**バドミントン競技入門**」（ケネス・クロスリー著・後藤忠弘訳・川端昇市監修・ベースボールマガジン社・八〇〇円）。本書の著者ケネス・クロスリー氏は、イングランド・バドミントン協会で史上初めてフル・タイムのプロコーチとなった人である。今日までイギリス全土をくまなく巡回し、あらゆるレベルのプレーヤーたちに接してきた。

内容は初心者から上級者まで幅広く役に立つもので、訳文も十分こなれていていわゆる翻訳調ではない。

以上の二点は、昨年出版された新刊だが、他に原書で語学の勉強を兼ねて読みたいという方のために三点ほど紹介しよう。

入門書ともいえる「**バドミントン——Badminton**」（マーガレット・ヴァーナー・ブロス **Margaret Varner Bloss** 著・ブラウン出版 **WM. C. Brown Company Publishers**）。内容はまさに入門書であり、〝バドミントンとは何か〟から〝試合のやり方〟までが書かれている。

著者はテキサス大学の体育の指導員である。

この「**バドミントン**」と同じシリーズで内容を一歩進めたのが「**アドバンスト・バドミントン——Advanced Badminton**」（ワイン・ロジャーズ **Wynn Rogers** 著・ブラウン出版）。

こちらは、シングルス、ダブルス、混合ダブルスの実戦的展開を説明したもので、配球など細かな点にまで気を配っている。

著者は、一九四九年から一九六八年まで、アメリカのトマス杯代表選手、コーチをつとめた人である。

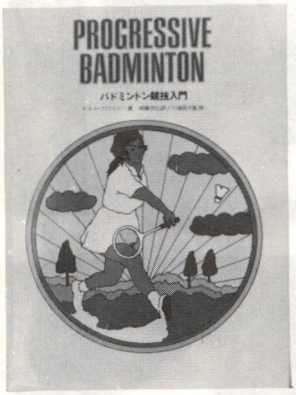
この二冊ではものたりない人のためにもう一冊紹介すると、「**コンプリート・ブック・オブ・バドミントン——The Complete Book of Badminton**」（エドワード・ブラウン **Edward Brown** 著・スタックポール・ブックス **Stackpole Books**）。

著者はイギリスのコーチで、内容はストロークの説明から、〝完全なプレーヤーとは〟まで、幅広くなっている。

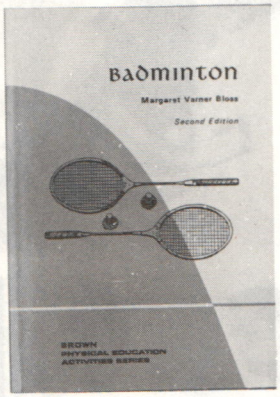
この三冊は、内容的には決して目新しいものではないが、英語を勉強しながらという方にはてごろと思われる。

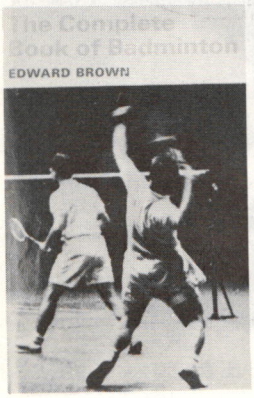
いずれも写真はあまり掲載されていないが、「**コンプリート・ブック・オブ・バドミントン**」には、コペロ対エディ・チュンのシングルスのすばらしい写真が載っている。これは貴重である。入手方法は、日本橋丸善、新宿紀伊国屋、渋谷三省堂の洋書部へ問合せれば取りよせてもらえる。また、チャールズ・イー・タトル商会（**TEL 811—7106**）が洋書に関して詳しい。





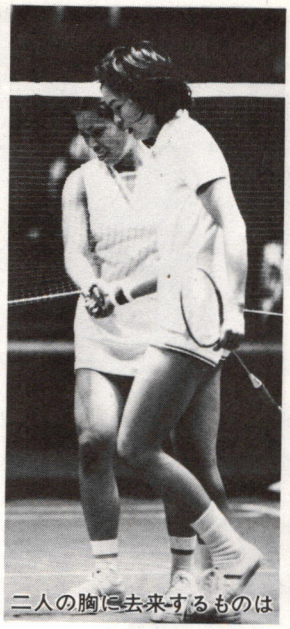






全日本総合選手権大会にひろう


ありがとう


二人の胸に去来するものは


やっと勝ったな……　ええ……


また来年がんばろう……


王者，湯木の汗

編集室から

○…あけましておめでとうございます。悪戦苦闘の末、ようやく11月号を送り出したら、もう世の中は昭和49年。情けないやらくやしいやら……。

今月号は、ずっと掲載できずにいた国体とインカレ、リーグ戦を入れ、全日本総合も収めました。ずい分遅くてとても、ニュースなどとは言えません。昨年中に追いつくはずが、今だにこのモタモタ状態。しかし今年はトラ年。猛虎のように頑張りますので、何卒ご支援、ご指導をお願い申し上げます。

○…現在企画にあがっているテーマを次に列記しますので、これはと思うもの、またご意見がありましたら、ぜひ編集部あてお寄せ下さい。

・**忘れられぬ人、忘れられぬ一戦**＝（現在のトッププレーヤーに恩師、思い出の勝負について綴ってもらう）

・**学校訪問**＝（中・高校のバドミントン部から、その歴史、現状、将来を語ってもらう）

・**会社訪問**＝（各会社、職場におけるバドミントンの話題を）

・**中・高校生のための指導教室**＝（わかりやすく、写真・図を多用して詳述する）

・**各都道府県だより**＝（各地協会の方々に追ってご協力をお願いいたします）

・**決定的瞬間**＝（読者の方々からの積極的なご協力をお願いいたします）

○…ざっとこんなところですが、具体化次第、誌上で発表いたします。

○…本誌に対するご意見、ご希望、また本誌の未着等に対するお問合せは、日本バドミントン協会出版局瀬戸あてにお送り下さい。

○…次号は、先の日中大会における湯仙虎、侯加昌、陳玉娘のプレーを分析する予他です。その次の号で、第3回国際バドミントン選手権大会のもようをお伝えします。（瀬戸　孝）

【バドミントン界】第49号
昭和48年10月25日　印刷
昭和48年11月1日　発行
編集兼発行人　秦　浩
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円

©無断転載を禁ず

第28回国民体育大会から

神奈川、輝く三連覇



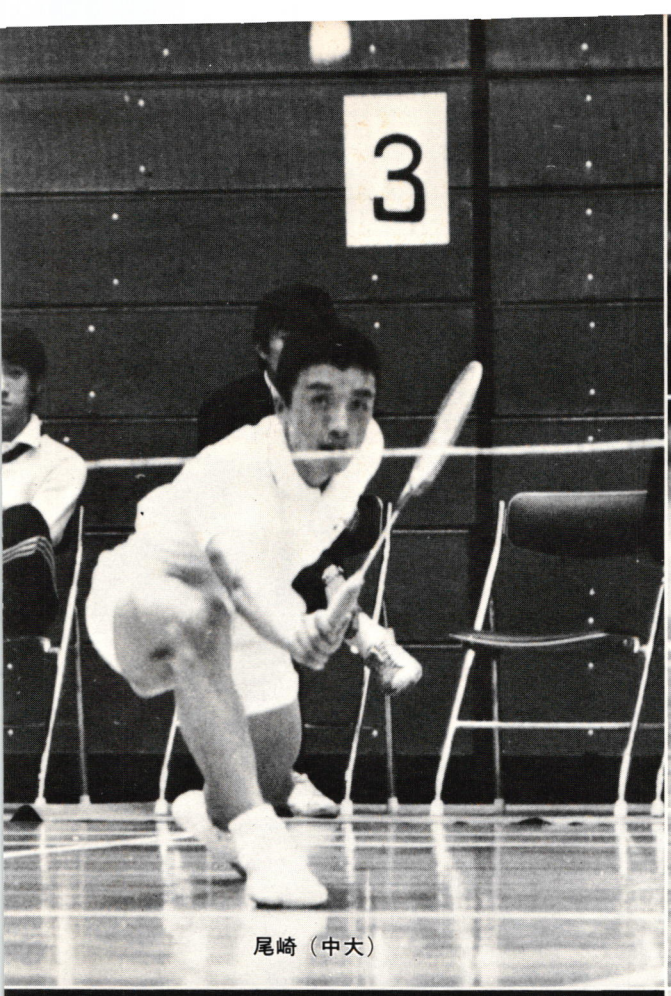
一般男子３連覇を喜ぶ神奈川県チーム
左から，松本選手，杉田選手，川上教員監督，笠井選手，小島選手，
鈴木一般男子監督，宮川選手，杉田夫人，徳田選手



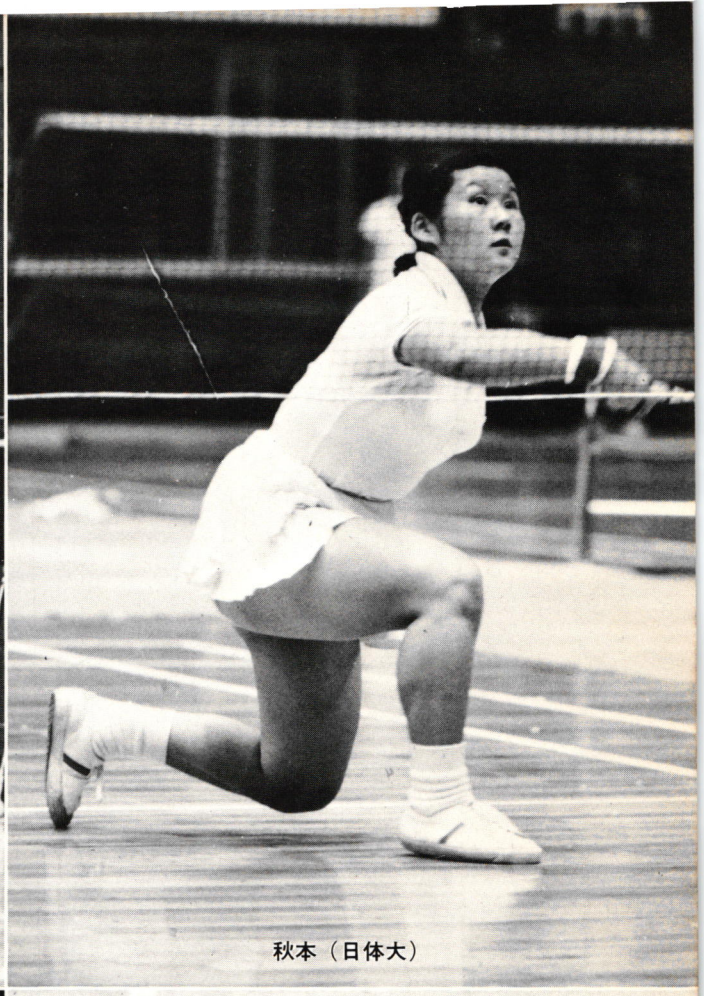
第24回全日本学生選手権大会から
チャンピオンの座についた銭谷



学生チャンピオン＝古谷



尾崎（中大）



秋本（日体大）



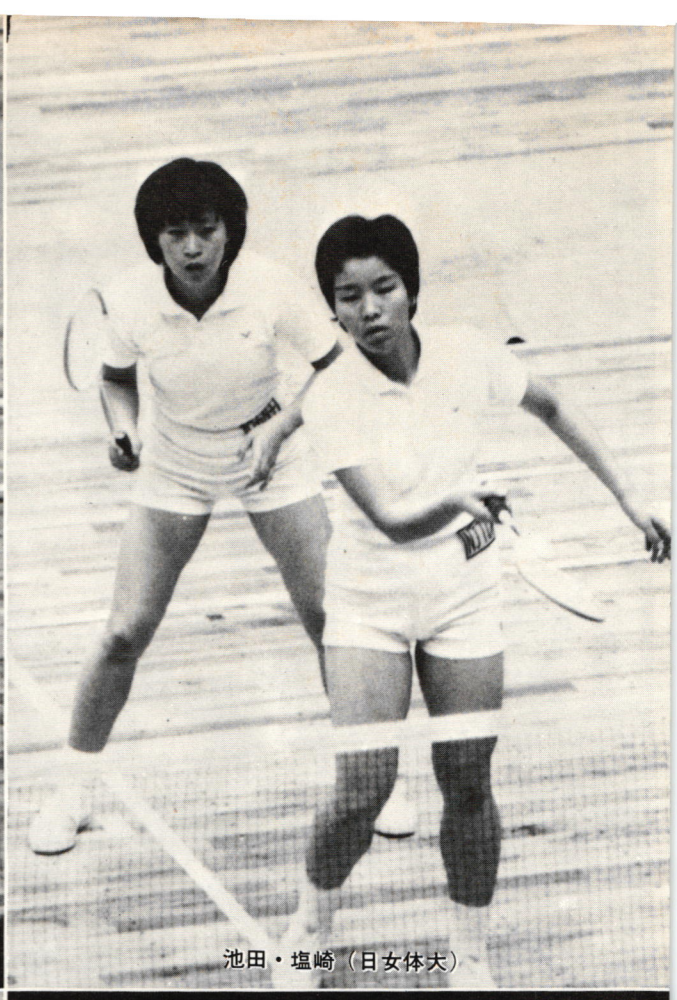
陣内（日体大）



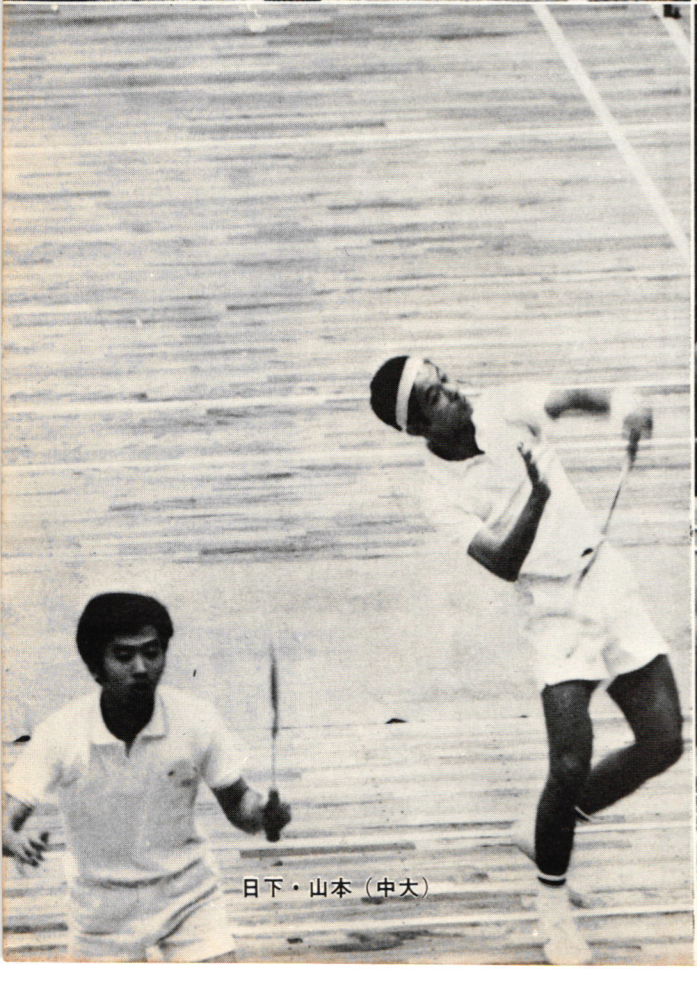
塩崎（日女体大）



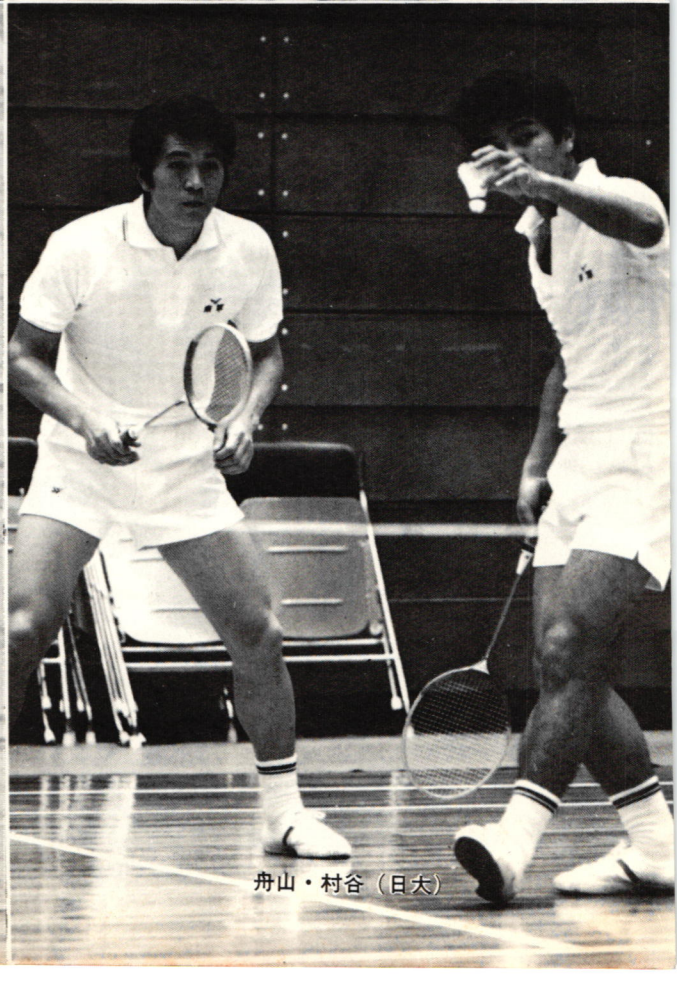
尾崎・銭谷（中大）



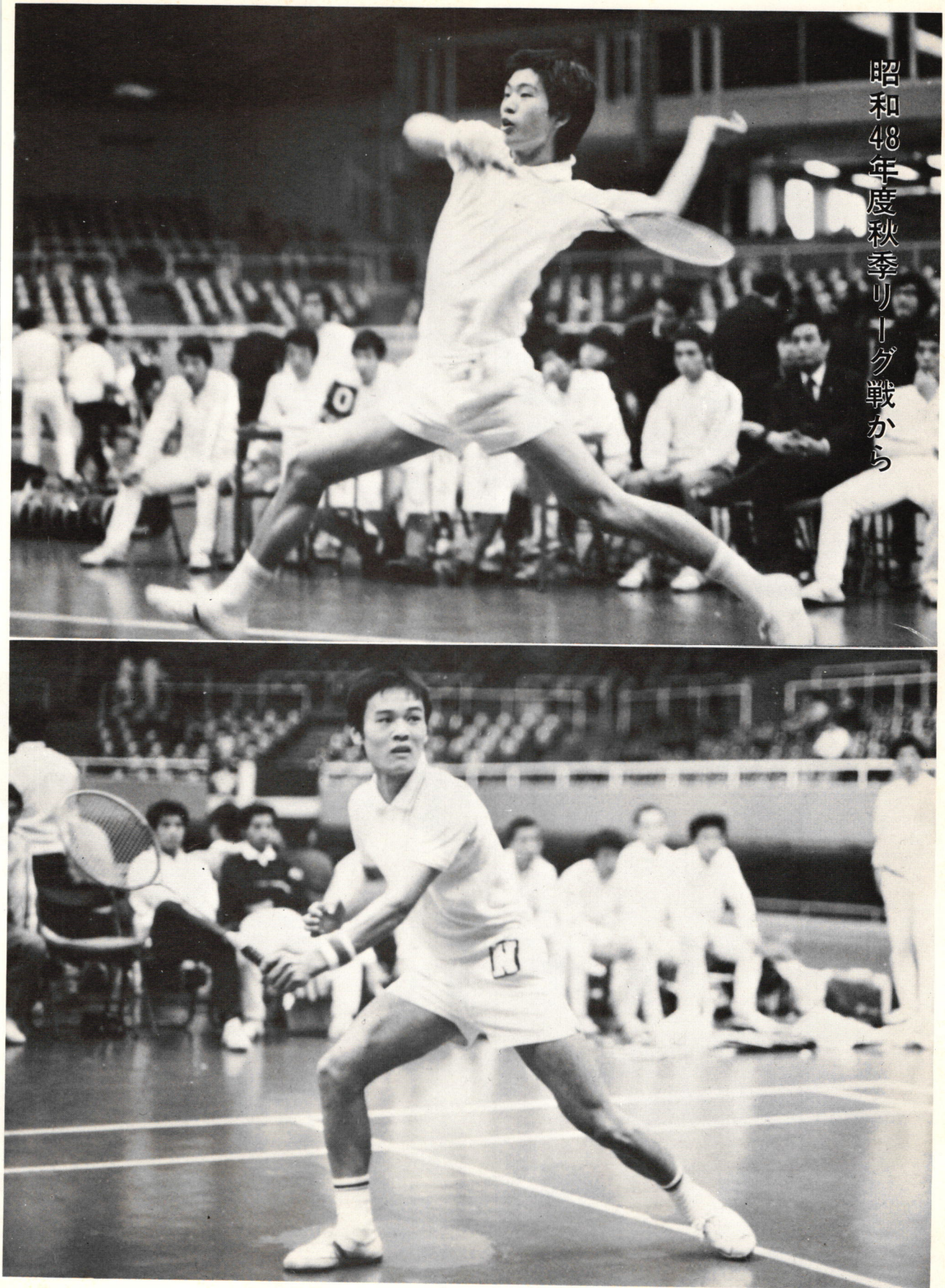
池田・塩崎（日女体大）



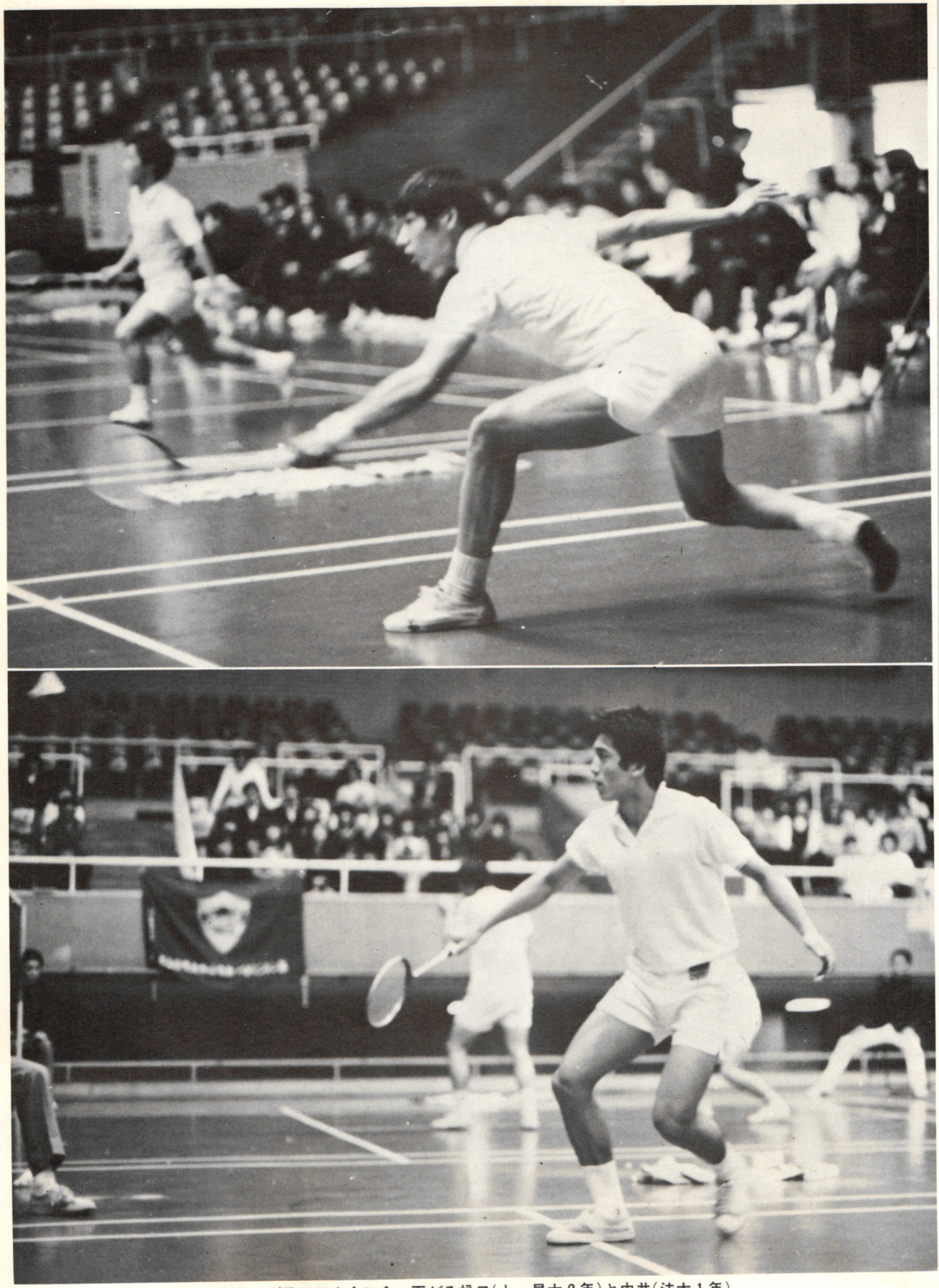
日下・山本（中大）



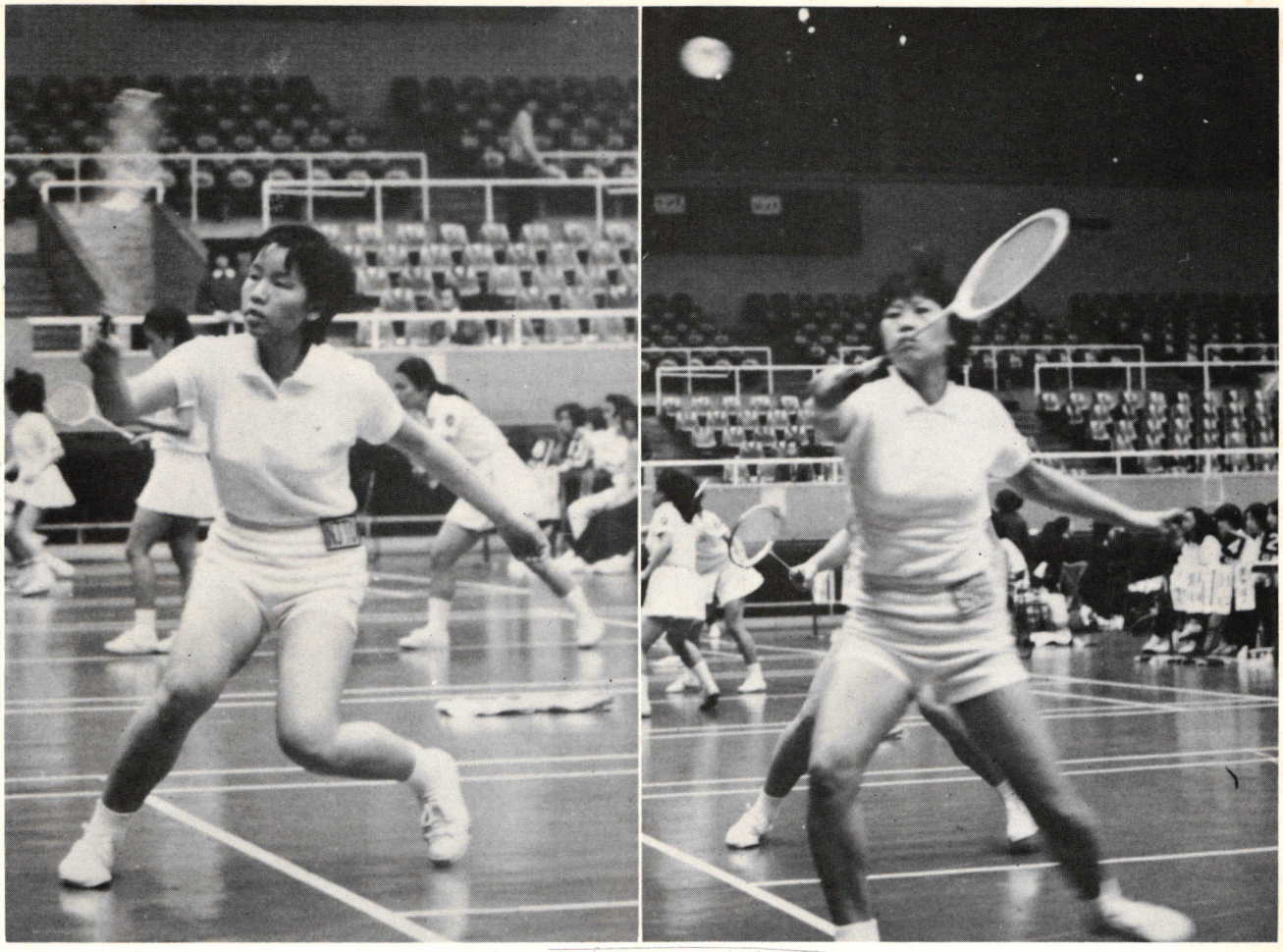
舟山・村谷（日大）



日本大学のリーグ戦優勝の原動力となった飯野(上)と土田



リーグ戦でけん命に食い下がる松口(上・早大2年)と中井(法大1年)

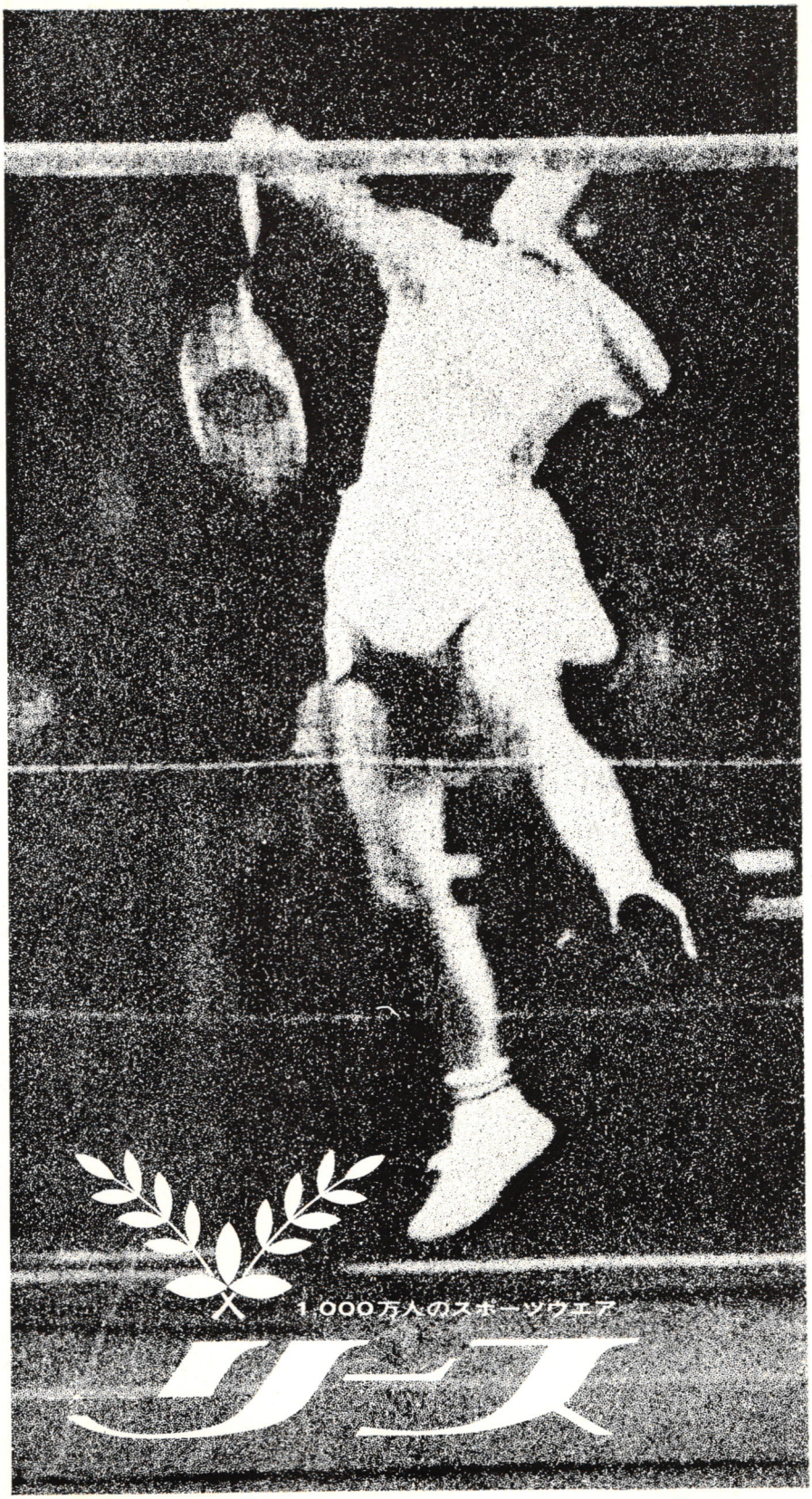


優勝の原動力となった池田(左)と塩崎



昭和48年度秋季関東大学リーグ戦優勝の日本女子体育大学チーム

この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

1,000万人のスポーツウエア

リース

K TOKYO

河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-1884・0453

月刊「バドミントン界」第49号
昭和四十八年十一月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所
東京都渋谷区神南一ノ一ノ一
日本バドミントン協会
定価百三十円



国籍は世界。ヨネックス。

ヨネヤマが
社名変更しました。

世界の一流プレイヤーに使われ、世界のコートで熱い視線を浴びてきたヨネヤマが、名前を変えました。いま、こころも新たにヨネックス。世界のレベルを決めるブランドに、ふさわしい名前です。グローバルな響きです。バドミントンを科学の目でとらえるヨネヤマの、力強い変身。ヨネックス。この5文字が、ことばの違いを越え、国籍を越えて、ひとびとの心をひとつに結びます。すでにもう、世界のひとたちはかってのヨネヤマをヨネックスと、そう呼びはじめました。さあ、あなたも。

No.9000
ハイステンレス
￥4,800（フレーム・ケース付）

YONEX